

分 野

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

基礎分野

1. 目的

基礎分野では、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な行動がとれるように学ぶ。人間と社会の仕組みを幅広く理解し、看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った判断・行動の基礎を学ぶ。また国際化へ対応しうる能力や情報通信技術を活用するための基礎的能力を養う。

2. 目標

- 1) 科学的思考力を高める能力を養う。
- 2) 感性を磨き、自由で主体的な判断力と行動力を養う。
- 3) 国際化、情報化社会へ対応できる能力を養う。
- 4) 自分自身を知り、対象を理解するためのコミュニケーション能力を養う。

3. 科目構成

基礎分野

医療心理学	1 単位	15 時間	1 年次
看護物理学	1 単位	15 時間	1 年次
医療統計学	1 単位	15 時間	2 年次
情報科学	1 単位	30 時間	2 年次
生物学	1 単位	15 時間	1 年次
カウンセリングの基礎	1 単位	15 時間	1 年次
文章表現	1 単位	15 時間	1 年次
医療社会学	1 単位	30 時間	1 年次
看護英語	1 単位	30 時間	2 年次
人間関係論	1 単位	15 時間	1 年次
家族論	1 単位	15 時間	1 年次
看護コミュニケーション	1 単位	15 時間	1 年次
生命倫理	1 単位	15 時間	1 年次
人間発達論	1 単位	15 時間	1 年次

科 目	医療心理学	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	心理学を初めて学ぶ学生には、自分自身の心理や日常の様々な現象を心理的に捉える基礎的な知識を学ぶこと、また、心理的面的みならず身体面の心身両面の理解を深められるようにする。それらの知識を、看護実践に活かせるように学ぶ。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎知識を理解する。 2. 心理的支援を行うための理論と方法を理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	人間の心理を理解するための基礎① 感覚・知覚の心理	講義		
	2	人間の心理を理解するための基礎② 学習・記憶の心理	講義		
	3	人間の心理を理解するための基礎③ 感情・動機の心理	講義		
	4	人間の心理を理解するための基礎④ 性格・知能の心理	講義		
	5	人間の心理を理解するための基礎⑤ 発達 の心理 社会・集団の心理	講義		
	6	医療場面での人間理解の展開① 健康の心理と人間理解（ストレス論など）	講義		
	7	医療場面での人間理解の展開② 臨床心理学の基礎（心理アセスメント、心理療法など）	講義		
	8	終講試験	試験		
テキスト	長田久雄編集：看護学生のための心理学 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	看護物理学	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	この講義では、看護に必要な物理学の一つの分野である「力学」を特に詳しく学ぶ。なぜなら力学は看護技術の基本だからである。また、看護師国家試験にたびたび出題されている看護計算も併せて学ぶ。今までに物理学にあまり触れていなかったとしても、理解が深まるように段階的に学習を進めていく。				
授業の到達目標	物理学の原理原則を知ること、看護活動における様々な疑問の解決を実感する。				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	看護と数学① なぜ看護に数学が必要か 看護計算に関する国家試験過去問題の紹介			講義
	2	看護と数学② 計算の優先順位 小数点の計算 割合の計算			講義
	3	看護と数学③ 比例を使った計算 濃度、速度の計算			講義
	4	看護と数学④ 酸素ボンベの残量を求める計算 点滴の滴下数、終了時間・時刻を求める計算			講義
	5	看護と物理学① なぜ看護に物理学が必要なのか 物理学に関する国家試験過去問題の紹介			講義
	6	看護と物理学② 三角比、ベクトル、ベクトルの成分 力のつり合い、力のモーメント			講義
	7	看護と物理学③ 重心と安定性 ニュートンの運動の法則 国家試験過去問題の解説			講義
	8	終講試験			試験
テキスト	講師作成の資料				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	医療統計学	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	<p>私たちの周りには、数限りないデータがある。そのデータを分析し、読み取ることによってそのデータの性質や意味を知ることができる。その方法論を学ぶのが統計学である。看護学の文献を読み解く際には、統計学の基本的な知識と最低限度の分析技術の習得は必須の課題となっている。</p> <p>健康に関する情報を正しく判断するために、まず、統計学の基本から学び、その手法を実際に使用し理解につなげる。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎を学ぶ。 2. 文献の読み解き、変数についての解析の手法を知る。 3. 統計学的な考え方を理解し研究や実践活動に活用できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	統計学とは 統計学ってなんだろう			講義
	2	基本的な用語とデータについて 基本的な用語 データの種類の特徴をつかむ データの分類			講義
	3	統計データのまとめ方 質的データのまとめ方 量的データのまとめ方			講義
	4	統計データのグラフ表示 グラフの利点と作成 各種グラフの特徴			講義
	5	2変数の記述統計—変数間の関係を探る 2変数の扱い方 関連、相関、関係 質的2変数の関連 量的2変数の図表化 分散分析			講義
	6	看護研究に必要な検定方法がわかる			講義
	7	統計学の理論と現実の調査研究のギャップを考える			講義
	8	課題レポート			試験
テキスト	大木秀一著： 基本からわかる 看護統計学入門 医歯薬出版				
成績評価方法	課題レポート				

科 目	情報科学	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	<p>情報科学時代の昨今、コンピューターやメール等の情報システムは、日常生活の中で親しまれ有益に活用されているが、医療や看護の現場で、どのように情報が活用されているかについては理解できていない。看護師を目指すものとして、知り得た情報をどう扱うかなどの倫理的な問題を明確にしたうえで、情報活用について認識できるようにする。</p> <p>コンピューターを活用して情報の処理・統計の基本を学ぶことは、看護職としての情報活用能力を高めるために重要である。そこで、この科目では、国際化・情報化社会に対応し、看護における問題解決・創造的活動にコンピューターを活用できるための素地を作る。また、演習によりコンピューターの基本的な捜査と統計の基礎を押さえる。そして、インターネットを活用して学習環境を拡大し、自己の学習能力を高める。</p>				
授業の到達目標	<p>医療や看護にどのように情報が活用されているかを学び、情報社会に適応できる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会における情報の意義と活用の基本姿勢について理解する。 2. 情報を扱ううえでの倫理と情報活用の実際を知る。 3. パーソナルコンピューターの基本操作ができる。 4. 統計の基礎について理解する。 5. コンピューター通信による情報活用の手段を理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	情報の定義と特徴 情報とは 情報の特徴 情報の認知と意思決定 情報の伝達とコミュニケーション	講義		
	2	保健医療と情報 医療における情報 エビデンス情報に基づいた保健医療	講義		
	3	看護と情報 看護における情報 情報社会と看護	講義		
	4	情報倫理と医療	講義		
	5	患者の権利と情報 患者の権利と自己決定への支援 診療情報の開示	講義		

	6	個人情報の保護 医療・看護における個人情報 情報の利用の仕方	講義
	7 8	コンピュータリテラシーとセキュリティ A コンピューターに関する基礎知識 ①コンピューターの種類 ②コンピューターの構成要素 ③ファイルシステム B インターネットに関する基礎知識と注意点 ①インターネットのしくみ ②電子メールのしくみと機能 ③ソーシャルメディア ④コンピューター利用におけるリスクと自衛 C パソコンの基本操作	講義 演習
	9 10 11	Word の使い方 Excel の使い方 ①Excel の基本操作 ②データの入力形式と表示方法 ③データの種類と単純集計 ④正規分布の特徴 ⑤～⑩は省く ⑪Excel による散布図と回帰分析 Excel による統計解析①	講義 演習
	12 13 14	ワープロソフト (microsoft word) の使い方 ①ページ設定 ②文章の入力 ③挿入 ④参考資料 ⑤校閲	講義 演習
		口頭発表とポスター発表 ①プレゼンテーションとは ②資料の作成と事前準備	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験 課題レポート		

科 目	生物学	単位数	1	時間数	15(8回)																											
開 講	1年次 前期	講 義																														
担当者	非常勤講師																															
授業のねらい	ヒトを含む生命現象について、広く生物学的視野の中でその理解が深められるように、高校までの生物をベースに、生体の持つ機能や遺伝の仕組み、生命を維持する機能について学ぶ。また、生物体の基本構造と機能を学び、生命とは何か、生命活動とはなにかについて考える。																															
授業の到達目標	生命現象を自然科学的視点から学習する際の基礎教養として、生命体に関する基礎知識を得、思考力を養う。生物体の構造と機能を学び、生命とは何か、生命活動とはなにかについて考える。																															
講義内容	授業計画及び学習の内容																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生命体のつくりと働き</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生体維持のエネルギー</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>細胞の増殖とからだの成り立ち</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>遺伝情報の伝達、発現のしくみ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>発生と進化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>個体の調整と生体防御</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>刺激の受容と行動</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	生命体のつくりと働き	講義	2	生体維持のエネルギー	講義	3	細胞の増殖とからだの成り立ち	講義	4	遺伝情報の伝達、発現のしくみ	講義	5	発生と進化	講義	6	個体の調整と生体防御	講義	7	刺激の受容と行動	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																														
1	生命体のつくりと働き	講義																														
2	生体維持のエネルギー	講義																														
3	細胞の増殖とからだの成り立ち	講義																														
4	遺伝情報の伝達、発現のしくみ	講義																														
5	発生と進化	講義																														
6	個体の調整と生体防御	講義																														
7	刺激の受容と行動	講義																														
8	終講試験	試験																														
テキスト	八杉貞雄著： ヒトを理解するための生物学 裳華房																															
成績評価方法	筆記試験																															

科 目	カウニングの基礎	単位数 1	時間数 15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義	
担当者	非常勤講師		
授業のねらい	<p>私たちが生きる現代社会では、日々様々なことが起こり、多くの命題や課題に満ち溢れている。それに一人一人がどう向き合い、対処し、かけがえのない人生を送ることができるか問われる時代である。そのなかで悩みや葛藤、困りごとを一緒に考え、解決し、新しい取り組みにすすめるよう援助することが、カウニング理論といえる。</p> <p>看護職として多くの人と出会い、援助していくためには基本的姿勢としてカウニングの基礎的な考え方、技法を学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得することが必要となる。ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを通して学びを深める。</p>		
授業の到達目標	カウニングでは、人の悩みや葛藤に寄り添い、抱える問題をその人自身が解決できるよう援助を行う。本講義では、人を理解するための方法やカウニングに関する基礎的知識を学び、心理相談のプロセスを理解する。		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	カウニングの意義① カウニングと心理療法	講義
	2	カウニングの意義② 話を聴くこと (ラポール・傾聴・共感・リフレクションなど)	講義
	3	カウニングの意義③ 話を聴くこと (支持的カウニングの過程)	講義
	4	カウニングの理論モデル① 精神分析的心理療法 クライアント中心療法	講義
	5	カウニングの理論モデル② 認知行動療法	講義
	6	カウニングの理論モデル③ 家族療法 他	講義
	7	医療現場における様々な心理的アプローチ	講義
	8	終講試験	試験
テキスト	特に指定しない。 参考図書 看護学生のための心理学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	文章表現	単位数	1	時間数	15(8回)																											
開 講	1年次 前期	講 義																														
担当者	非常勤講師																															
授業のねらい	<p>文章表現はコミュニケーションの一部を担うものである。適切な言語表現を身につけ、自分の意見を適切に表現し、他人の意見を聞き要約する能力を身につけることは、コミュニケーションをスムーズにするのみならず、他の学習を進めるためにも重要である。</p> <p>自分の考えや意見を適切に表現できるような基礎的能力を養う。</p>																															
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を書くための基本的な技術やルールを学び、正しい日本語表現を使用して気持ちを伝えることができる。 2. レポートや論文及び社会生活に必要な文章を作成できる。 3. 文章の構成方法を踏まえて、事実を正確に他者に伝える表現方法を身につける。 																															
講義内容	授業計画及び学習の内容																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方 グループ内インタビュー</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原稿用紙の書き方</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新聞記事について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事実と意見</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「ですます体」と「である体」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>書評について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>注意すべき表現</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験（小論文）</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	授業の進め方 グループ内インタビュー	講義	2	原稿用紙の書き方	講義	3	新聞記事について	講義	4	事実と意見	講義	5	「ですます体」と「である体」	講義	6	書評について	講義	7	注意すべき表現	講義	8	終講試験（小論文）	試験
回数	内 容	方法																														
1	授業の進め方 グループ内インタビュー	講義																														
2	原稿用紙の書き方	講義																														
3	新聞記事について	講義																														
4	事実と意見	講義																														
5	「ですます体」と「である体」	講義																														
6	書評について	講義																														
7	注意すべき表現	講義																														
8	終講試験（小論文）	試験																														
テキスト	なし																															
成績評価方法	筆記試験																															

科 目	医療社会学	単位数	1	時間数	30(15回)																													
開 講	1年次 前期	講 義																																
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師																																	
授業のねらい	<p>医療社会学は、社会学の一部分として、医療や医療にかかわる様々な営みを扱う学問である。その範囲は広く医学・法学・経済学・倫理学など多岐にわたる。本講義では、主に医療制度・医療法学・医療経済などを中心とした医療の「仕組み」と臨床・研究、倫理、薬害などの医療にかかわる「営み」について学ぶ。社会の営みが、どのような仕組みで成立しているのかを学ぶ中で、専門職としての責任や役割の理解を深めていく。</p>																																	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会全体の構造、機能及び現代社会が直面する社会問題・医療問題について認識を深める。 2. 家族社会・地域社会といった構造・機能を理解し、その中にあるべき看護の営みについて考えることができる。 3. 法律・社会制度・社会保険制度について理解し、今後の医療と保険について考えることができる。 																																	
講義内容	授業計画及び学習の内容																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療を取り巻く日本の社会環境</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療保険制度と介護保険制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医事法制① 医療従事者法 医師・患者関係 医療事故</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>医事法制② 医療過誤訴訟の具体例 紛争解決制度と周辺制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>チーム医療 チーム医療とは チーム医療モデル チーム医療に求められるもの</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人役割、医療化・脱医療化・脱施設化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>スティグマとしての病① ハンセン病</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スティグマとしての病② ハンセン病</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>災害と医療① 災害派遣医療チーム</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内 容	方法	1	医療を取り巻く日本の社会環境	講義	2	医療保険制度と介護保険制度	講義	3	医事法制① 医療従事者法 医師・患者関係 医療事故	講義	4	医事法制② 医療過誤訴訟の具体例 紛争解決制度と周辺制度	講義	5	チーム医療 チーム医療とは チーム医療モデル チーム医療に求められるもの	講義	6	人役割、医療化・脱医療化・脱施設化	講義	7	スティグマとしての病① ハンセン病	講義	8	スティグマとしての病② ハンセン病	講義	9	災害と医療① 災害派遣医療チーム	講義
回数	内 容	方法																																
1	医療を取り巻く日本の社会環境	講義																																
2	医療保険制度と介護保険制度	講義																																
3	医事法制① 医療従事者法 医師・患者関係 医療事故	講義																																
4	医事法制② 医療過誤訴訟の具体例 紛争解決制度と周辺制度	講義																																
5	チーム医療 チーム医療とは チーム医療モデル チーム医療に求められるもの	講義																																
6	人役割、医療化・脱医療化・脱施設化	講義																																
7	スティグマとしての病① ハンセン病	講義																																
8	スティグマとしての病② ハンセン病	講義																																
9	災害と医療① 災害派遣医療チーム	講義																																

	10	災害と医療② サイコロジカル・ファーストエイド (PFA)	講義
	11	近代医療と代替医療 メデイエーション、ナラティブアプローチ、代替医療	講義
	12	ジェンダーと医療	講義
	13	薬害と薬事行政 薬害の歴史 クロロキン網膜症、 サリドマイドなど	講義
	14	予防接種	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	大滝恭弘編著：医療系学部のための「医療と社会」入門 ムイスリ出版		
成績評価方法	筆記試験 など		

科 目	看護英語	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	2年次 後期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	<p>語学の苦手意識を持つ学生が多い中でも医療現場では「国際化に対応できる」力を養うために語学は必須となる。</p> <p>近代国際交流が進み看護の世界でも英語を使う機会が飛躍的に増えている。しかし、多くの言語を表面的に学習したとしてもそれが活かされなければ学生の興味は薄れ効果は上がらない。それ故、世界の言語の中でも話者が多い英語を取り上げた。臨床場面で起こり得る様々な状況を想定し、英語で患者の話聞いて理解し適切に対応していく、使える英語表現を着実に身につける。</p>																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カルテや英語の文献を読むための基礎力を養う。 2. 英語を使って患者とコミュニケーションをとる基礎力を身につける。 																																																		
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>テキストの概要、聞き取り練習</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1 入院患者に対応する</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 2 看護師の役割を伝える</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 3 患者から生活習慣の情報収集をする</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 4 生命徴候を測定する（体温・脈拍・呼吸）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 5 生命徴候を測定する（血圧）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 6 食事介助・治療食の説明をする</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 7 片麻痺患者のリハビリ（1）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 8 片麻痺患者のリハビリ（2）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 9 ベッドで洗髪をする</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 10 足浴をする</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 11 採血をする</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12 食事療法や運動について指導する</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>練習問題</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>終講試験 まとめ</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	テキストの概要、聞き取り練習	講義	2	Unit 1 入院患者に対応する	講義	3	Unit 2 看護師の役割を伝える	講義	4	Unit 3 患者から生活習慣の情報収集をする	講義	5	Unit 4 生命徴候を測定する（体温・脈拍・呼吸）	講義	6	Unit 5 生命徴候を測定する（血圧）	講義	7	Unit 6 食事介助・治療食の説明をする	講義	8	Unit 7 片麻痺患者のリハビリ（1）	講義	9	Unit 8 片麻痺患者のリハビリ（2）	講義	10	Unit 9 ベッドで洗髪をする	講義	11	Unit 10 足浴をする	講義	12	Unit 11 採血をする	講義	13	Unit 12 食事療法や運動について指導する	講義	14	練習問題	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	テキストの概要、聞き取り練習	講義																																																	
2	Unit 1 入院患者に対応する	講義																																																	
3	Unit 2 看護師の役割を伝える	講義																																																	
4	Unit 3 患者から生活習慣の情報収集をする	講義																																																	
5	Unit 4 生命徴候を測定する（体温・脈拍・呼吸）	講義																																																	
6	Unit 5 生命徴候を測定する（血圧）	講義																																																	
7	Unit 6 食事介助・治療食の説明をする	講義																																																	
8	Unit 7 片麻痺患者のリハビリ（1）	講義																																																	
9	Unit 8 片麻痺患者のリハビリ（2）	講義																																																	
10	Unit 9 ベッドで洗髪をする	講義																																																	
11	Unit 10 足浴をする	講義																																																	
12	Unit 11 採血をする	講義																																																	
13	Unit 12 食事療法や運動について指導する	講義																																																	
14	練習問題	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	佐々木かおる他監修： Health Talk 実践的看護英語の基礎																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	人間関係論	単位数	1	時間数	15(8回)																											
開 講	1年次 後期	講 義																														
担当者	専任教員（実務経験あり）																															
授業のねらい	人間関係論を学ぶことにより、自分を知り、誠実な態度で他者と向き合える姿勢を身につける機会とし、看護の基本となる対象理解、人間関係づくりの第一歩とする。また、行動を科学的にとらえ、表面だけで物事を判断するのではなく、その裏側に隠された感情を知る大切さを考えられるようにする。																															
授業の到達目標	人間の行動そのものが持っている精神的・身体的・社会的な意味を知ることによって人間理解を深める手がかりを得る。 自分を取り巻く人間関係の成り立ちを理解し人間関係を調整するための自己の姿勢・態度のあり方を理解する。																															
講義内容	授業計画及び学習の内容																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人間関係の中の自己と他者</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>対人関係と役割 対人関係の成立、医事、崩壊 対人葛藤と対処、社会的役割</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>集団と個人 集団の特性、課題遂行、問題解決と意思決定</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>保健医療チームの人間関係 医療におけるチームと看護師の役割 チームワークとチームエラー 多職種連携に向けて</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>患者を支える人間関係 様々な看護場面における人間関係</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地域を作る人間関係① 個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域を作る人間関係② 人間関係の集合体としての地域の力 人間関係の力が最大になる社会</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	人間関係の中の自己と他者	講義	2	対人関係と役割 対人関係の成立、医事、崩壊 対人葛藤と対処、社会的役割	講義	3	集団と個人 集団の特性、課題遂行、問題解決と意思決定	講義	4	保健医療チームの人間関係 医療におけるチームと看護師の役割 チームワークとチームエラー 多職種連携に向けて	講義	5	患者を支える人間関係 様々な看護場面における人間関係	講義	6	地域を作る人間関係① 個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係	講義	7	地域を作る人間関係② 人間関係の集合体としての地域の力 人間関係の力が最大になる社会	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																														
1	人間関係の中の自己と他者	講義																														
2	対人関係と役割 対人関係の成立、医事、崩壊 対人葛藤と対処、社会的役割	講義																														
3	集団と個人 集団の特性、課題遂行、問題解決と意思決定	講義																														
4	保健医療チームの人間関係 医療におけるチームと看護師の役割 チームワークとチームエラー 多職種連携に向けて	講義																														
5	患者を支える人間関係 様々な看護場面における人間関係	講義																														
6	地域を作る人間関係① 個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係	講義																														
7	地域を作る人間関係② 人間関係の集合体としての地域の力 人間関係の力が最大になる社会	講義																														
8	終講試験	試験																														
テキスト	系統看護学講座 人間関係論 医学書院																															
成績評価方法	筆記試験																															

科 目	家族論	単位数	1	時間数	15(8回)																											
開 講	1年次 前期	講 義																														
担当者	専任教員（実務経験あり）																															
授業のねらい	<p>看護は健康問題を持つその人個人だけでなく、その人が生まれ育った家族や共に生活をしている家族をも視野に入れて看護を実践する必要がある。</p> <p>そのため看護の対象としての家族をどのようにとらえるのか、また家族を理解するポイントなどを学び、その人と家族の健康を支援する在り方について理解を深める。</p>																															
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を単位として援助することの意義について理解する。 2. 家族員が病気になることによる家族への影響について理解する。 3. 理論を活用しながら家族像を描くことができる。 4. 家族との援助関係の形成や支援について考えることができる。 																															
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> 家族の理解 家族の定義 システムとしての家族 我が国の家族形態と価値観の変化 </td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> 家族機能 現代家族とその課題 </td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> 家族のアセスメントの基礎 ジェノグラム エコマップ等の活用 看護の対象としての家族のとらえ（事例検討） 代表される理論 </td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>家族看護を支える理論と介入</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td> 家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する① 家族像構築と支援（事例検討グループワーク） </td> <td style="text-align: center;">講義 演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td> 家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する② 家族像構築と支援（事例検討グループワーク） </td> <td style="text-align: center;">講義 演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>グループワーク発表会</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>グループワーク発表会</td> <td style="text-align: center;">試験</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	家族の理解 家族の定義 システムとしての家族 我が国の家族形態と価値観の変化	講義	2	家族機能 現代家族とその課題	講義	3	家族のアセスメントの基礎 ジェノグラム エコマップ等の活用 看護の対象としての家族のとらえ（事例検討） 代表される理論	講義	4	家族看護を支える理論と介入	講義	5	家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する① 家族像構築と支援（事例検討グループワーク）	講義 演習	6	家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する② 家族像構築と支援（事例検討グループワーク）	講義 演習	7	グループワーク発表会	演習	8	グループワーク発表会	試験
回数	内 容	方法																														
1	家族の理解 家族の定義 システムとしての家族 我が国の家族形態と価値観の変化	講義																														
2	家族機能 現代家族とその課題	講義																														
3	家族のアセスメントの基礎 ジェノグラム エコマップ等の活用 看護の対象としての家族のとらえ（事例検討） 代表される理論	講義																														
4	家族看護を支える理論と介入	講義																														
5	家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する① 家族像構築と支援（事例検討グループワーク）	講義 演習																														
6	家族構成員の健康上の問題と家族の体験を分析する② 家族像構築と支援（事例検討グループワーク）	講義 演習																														
7	グループワーク発表会	演習																														
8	グループワーク発表会	試験																														
テキスト	中野綾美編著：家族看護学 MC メディカ出版																															
成績評価方法	グループワークの演習の成果（ミニレポートなど）																															

科 目	看護コミュニケーション	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	看護専門職として、援助を必要としている人やその家族とのコミュニケーションの取り方、医療チームの一員として医療職者間における円滑なコミュニケーションの取り方などを学び、将来の看護の実践に役立つコミュニケーションスキルを修得する。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 看護者がコミュニケーションについて学ぶ意味を述べることができる。 3. コミュニケーションの手段とその意味が分かる。 4. 自己のコミュニケーション能力を向上させるために努力すべきことについて表現できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	コミュニケーションの意義と目的			講義
	2	コミュニケーションの構成要素と成立過程			講義
	3	関係構築のためのコミュニケーション			講義
	4	効果的なコミュニケーションの実際			講義
	5	アサーティブネス			講義
	6	コミュニケーション障害への対応①			講義
	7	コミュニケーション障害への対応②			講義
	8	終講試験			試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	生命倫理	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	看護職者にとって人の生と死は、その活動の根幹にあるものであり、避けて通ることはできない。医療現場では医療技術の急激な進歩によって出産や死、治療において命をめぐる倫理の問題に直面せざるを得ない現実がある。しかし、学生の生活体験上から死は非日常的なものであり、医療現場で体験する倫理問題を考える素地を形成する必要がある。現代医療における倫理的課題について理解を深め、インフォームドコンセントなど対象の権利を守るための知識を習得する。				
授業の到達目標	現代医療における倫理的課題・医療倫理の問題を学ぶ。看護職としての生命倫理の知識を学び、理解する。				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	生命倫理とは何か 生命倫理の基礎知識	講義		
	2	在宅看護における倫理的課題	講義		
	3	母性領域における倫理的課題	講義		
	4	小児領域における倫理的課題	講義		
	5	老年領域における倫理的課題	講義		
	6	精神領域における倫理的課題	講義		
	7	再生医療における倫理的課題	講義		
	8	終講試験	試験		
テキスト	村上喜良著： 基礎から学ぶ生命倫理学 勁草書房				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	人間発達論	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	人間は誕生から死に至るまで生涯にわたって発達していく存在である。人間発達学は身体・心理・社会的側面の統合体としての人間とその人間の一生を対象とする。人間を対象とする看護において人間の理解は基本である。看護者として人間が胎児期から老年期への成長・発達していく過程でのさまざまな心と身体の正常な発達を理解することが必要である。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間発達論とは何かを学び、その意義について理解する。 2. 人間発達に影響を及ぼす因子について理解する。 3. 発達理論について学習し理解する。 4. 人間のライフサイクルと発達を学習し理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	人間と発達 発達 の 定義 人間発達学 の 意義	講義		
	2	発達 の 諸理論 ゲゼル エリクソン ピアジェ ボウルビィ レビンソン ハヴィガースト	講義		
	3	人間のライフサイクルと発達① 胎児期の心と身体の特徴	講義		
	4	人間のライフサイクルと発達② 乳幼児期の心と身体の特徴	講義		
	5	人間のライフサイクルと発達③ 学童期・思春期の心と身体の特徴	講義		
	6	人間のライフサイクルと発達④ 成人期の心と身体の特徴	講義		
	7	人間のライフサイクルと発達⑤ 老年期の心と身体の特徴	講義		
	8	終講試験	試験		
テキスト	舟島なをみ著： 看護のための人間発達学 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

専門基礎分野

1. 目的

専門基礎分野では、看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を養う。人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度、および倫理に基づいて看護を実践できる基礎的能力を養う。また、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように、必要な知識と基礎的な能力を養う。

2. 目標

- 1) 人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を養う。
- 2) 人々が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように、必要な知識と基礎的な能力を養う。

3. 科目構成

専門基礎分野

解剖学Ⅰ	1 単位	30 時間	1 年次
解剖学Ⅱ	1 単位	30 時間	1 年次
生理学Ⅰ	1 単位	30 時間	1 年次
生理学Ⅱ	1 単位	30 時間	1 年次
生化学	1 単位	30 時間	1 年次
臨床栄養学	1 単位	15 時間	1 年次
薬理学	1 単位	30 時間	1 年次
微生物学	1 単位	30 時間	1 年次
病理学	1 単位	30 時間	1 年次
病態生理学Ⅰ	1 単位	30 時間	1 年次
病態生理学Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年次
病態生理学Ⅲ	1 単位	30 時間	2 年次
病態生理学Ⅳ	1 単位	30 時間	2 年次
ヘルスアセスメントⅠ	1 単位	15 時間	2 年次
ヘルスアセスメントⅡ	1 単位	15 時間	2 年次
健康と病気のしくみ	1 単位	15 時間	1 年次
公衆衛生学	1 単位	30 時間	1 年次
社会福祉	1 単位	30 時間	2 年次
看護関係法令	1 単位	15 時間	2 年次
臨床医療	1 単位	15 時間	1 年次
総合医療論	1 単位	15 時間	2 年次
法制度と生活支援	1 単位	15 時間	2 年次

科 目	解剖学 I	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	1年次 前期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	<p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>身体の異常とは何かを知り、異常に気付くには正常な身体のしくみと働きを知る必要がある。したがって人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ。</p>																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の区分や部位の名称を理解し、人体の基本的構造について系統的に理解することができる。 2. 身体の構造面から人間を理解することができる。 																																																		
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能を学ぶために</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>解剖生理学のための基礎知識 細胞とは 組織とは</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>解剖生理学のための基礎知識 人体各部位の名称</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>身体の支持と運動 骨学 I</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>身体の支持と運動 骨学 II</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体の支持と運動 骨学 III</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>身体の支持と運動 骨格筋 I</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>身体の支持と運動 骨格筋 II</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>身体の支持と運動 骨格筋 III</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>身体の支持と運動 骨格筋 IV</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>血液の循環とその調節 循環器の基礎</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>血液の循環とその調節 循環器 I</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>血液の循環とその調節 循環器 II</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>血液の循環とその調節 循環器 III</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	人体の構造と機能を学ぶために	講義	2	解剖生理学のための基礎知識 細胞とは 組織とは	講義	3	解剖生理学のための基礎知識 人体各部位の名称	講義	4	身体の支持と運動 骨学 I	講義	5	身体の支持と運動 骨学 II	講義	6	身体の支持と運動 骨学 III	講義	7	身体の支持と運動 骨格筋 I	講義	8	身体の支持と運動 骨格筋 II	試験	9	身体の支持と運動 骨格筋 III	講義	10	身体の支持と運動 骨格筋 IV	講義	11	血液の循環とその調節 循環器の基礎	講義	12	血液の循環とその調節 循環器 I	講義	13	血液の循環とその調節 循環器 II	講義	14	血液の循環とその調節 循環器 III	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	人体の構造と機能を学ぶために	講義																																																	
2	解剖生理学のための基礎知識 細胞とは 組織とは	講義																																																	
3	解剖生理学のための基礎知識 人体各部位の名称	講義																																																	
4	身体の支持と運動 骨学 I	講義																																																	
5	身体の支持と運動 骨学 II	講義																																																	
6	身体の支持と運動 骨学 III	講義																																																	
7	身体の支持と運動 骨格筋 I	講義																																																	
8	身体の支持と運動 骨格筋 II	試験																																																	
9	身体の支持と運動 骨格筋 III	講義																																																	
10	身体の支持と運動 骨格筋 IV	講義																																																	
11	血液の循環とその調節 循環器の基礎	講義																																																	
12	血液の循環とその調節 循環器 I	講義																																																	
13	血液の循環とその調節 循環器 II	講義																																																	
14	血液の循環とその調節 循環器 III	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	解剖学Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	1年次 後期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	<p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>身体の異常とは何かを知り、異常に気付くには正常な身体のしくみと働きを知る必要がある。したがって人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ。</p> <p>解剖学Ⅱでは、帝京大学医学部解剖学講座の解剖を見学させていただく。</p>																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の区分や部位の名称を理解し、人体の基本的構造について系統的に理解することができる。 2. 身体の構造面から人間を理解することができる。 																																																		
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>栄養の消化と吸収 消化器Ⅰ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>栄養の消化と吸収 消化器Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>栄養の消化と吸収 消化器Ⅲ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅰ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅰ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>生殖・発生と老化のしくみ Ⅰ</td><td>試験</td></tr> <tr><td>9</td><td>生殖・発生と老化のしくみ Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>身体機能の防御と適応 内分泌Ⅰ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>身体機能の防御と適応 内分泌Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>情報の受容と処理 中枢神経系Ⅰ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>情報の受容と処理 中枢神経系Ⅱ</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>解剖見学</td><td>演習</td></tr> <tr><td>15</td><td>終講試験 まとめ</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	栄養の消化と吸収 消化器Ⅰ	講義	2	栄養の消化と吸収 消化器Ⅱ	講義	3	栄養の消化と吸収 消化器Ⅲ	講義	4	呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅰ	講義	5	呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅱ	講義	6	体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅰ	講義	7	体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅱ	講義	8	生殖・発生と老化のしくみ Ⅰ	試験	9	生殖・発生と老化のしくみ Ⅱ	講義	10	身体機能の防御と適応 内分泌Ⅰ	講義	11	身体機能の防御と適応 内分泌Ⅱ	講義	12	情報の受容と処理 中枢神経系Ⅰ	講義	13	情報の受容と処理 中枢神経系Ⅱ	講義	14	解剖見学	演習	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	栄養の消化と吸収 消化器Ⅰ	講義																																																	
2	栄養の消化と吸収 消化器Ⅱ	講義																																																	
3	栄養の消化と吸収 消化器Ⅲ	講義																																																	
4	呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅰ	講義																																																	
5	呼吸と血液の働き 呼吸器Ⅱ	講義																																																	
6	体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅰ	講義																																																	
7	体液の調整と尿の生成 泌尿器Ⅱ	講義																																																	
8	生殖・発生と老化のしくみ Ⅰ	試験																																																	
9	生殖・発生と老化のしくみ Ⅱ	講義																																																	
10	身体機能の防御と適応 内分泌Ⅰ	講義																																																	
11	身体機能の防御と適応 内分泌Ⅱ	講義																																																	
12	情報の受容と処理 中枢神経系Ⅰ	講義																																																	
13	情報の受容と処理 中枢神経系Ⅱ	講義																																																	
14	解剖見学	演習																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	生理学 I	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	1年次 前期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	生理学は、生命活動の生体の機能（働き）を明らかにする学問であり、役割と機能を学ぶ。人体において営まれている様々な生命現象は、生命を維持する働き（植物機能）と生命を活用する働き（動物機能）と人体を保護して種を保存する機能とがある。それらの人体の正常な構造と機能を正確に学び、看護に活かしていく。																																																		
授業の到達目標	1. 人体の各器官系統の構造と機能を正確に理解することができる。 2. 看護に必要な観察力を身につけ臨床判断能力の向上をはかる。																																																		
講義内容	授業計画及び学習の内容																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生理学を学ぶための基礎知識① 形からみた人体 素材からみた人体</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生理学を学ぶための基礎知識① 機能からみた人体</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自律神経による調節</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>栄養の消化吸収①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>栄養の消化吸収②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栄養の消化吸収③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>呼吸と血液のはたらき①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>呼吸と血液のはたらき②</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸と血液のはたらき③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>血液の循環とその調節①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>血液の循環とその調節②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>血液の循環とその調節③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>体液の調整と尿の生成①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>体液の調整と尿の生成②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	生理学を学ぶための基礎知識① 形からみた人体 素材からみた人体	講義	2	生理学を学ぶための基礎知識① 機能からみた人体	講義	3	自律神経による調節	講義	4	栄養の消化吸収①	講義	5	栄養の消化吸収②	講義	6	栄養の消化吸収③	講義	7	呼吸と血液のはたらき①	講義	8	呼吸と血液のはたらき②	試験	9	呼吸と血液のはたらき③	講義	10	血液の循環とその調節①	講義	11	血液の循環とその調節②	講義	12	血液の循環とその調節③	講義	13	体液の調整と尿の生成①	講義	14	体液の調整と尿の生成②	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	生理学を学ぶための基礎知識① 形からみた人体 素材からみた人体	講義																																																	
2	生理学を学ぶための基礎知識① 機能からみた人体	講義																																																	
3	自律神経による調節	講義																																																	
4	栄養の消化吸収①	講義																																																	
5	栄養の消化吸収②	講義																																																	
6	栄養の消化吸収③	講義																																																	
7	呼吸と血液のはたらき①	講義																																																	
8	呼吸と血液のはたらき②	試験																																																	
9	呼吸と血液のはたらき③	講義																																																	
10	血液の循環とその調節①	講義																																																	
11	血液の循環とその調節②	講義																																																	
12	血液の循環とその調節③	講義																																																	
13	体液の調整と尿の生成①	講義																																																	
14	体液の調整と尿の生成②	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	生理学Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	1年次 後期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	生理学は、生命活動の生体の機能（働き）を明らかにする学問であり、役割と機能を学ぶ。人体において営まれている様々な生命現象は、生命を維持する働き（植物機能）と生命を活用する働き（動物機能）と人体を保護して種を保存する機能とがある。それらの人体の正常な構造と機能を正確に学び、看護に活かしていく。																																																		
授業の到達目標	1. 人体の各器官系統の構造と機能を正確に理解することができる。 2. 看護に必要な観察力を身につけ臨床判断能力の向上をはかる。																																																		
講義内容	授業計画及び学習の内容																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>内臓機能の調節①（自律神経による調節は除く）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>内臓機能の調節②（自律神経による調節は除く）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>内臓機能の調節③（自律神経による調節は除く）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>身体の支持と運動①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>身体の支持と運動②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体の支持と運動③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>情報の受容と処理①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>情報の受容と処理②</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>情報の受容と処理③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>身体機能の防御と適応①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>身体機能の防御と適応②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>身体機能の防御と適応③</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生殖・発生と老化のしくみ①</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>生殖・発生と老化のしくみ②</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	内臓機能の調節①（自律神経による調節は除く）	講義	2	内臓機能の調節②（自律神経による調節は除く）	講義	3	内臓機能の調節③（自律神経による調節は除く）	講義	4	身体の支持と運動①	講義	5	身体の支持と運動②	講義	6	身体の支持と運動③	講義	7	情報の受容と処理①	講義	8	情報の受容と処理②	試験	9	情報の受容と処理③	講義	10	身体機能の防御と適応①	講義	11	身体機能の防御と適応②	講義	12	身体機能の防御と適応③	講義	13	生殖・発生と老化のしくみ①	講義	14	生殖・発生と老化のしくみ②	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	内臓機能の調節①（自律神経による調節は除く）	講義																																																	
2	内臓機能の調節②（自律神経による調節は除く）	講義																																																	
3	内臓機能の調節③（自律神経による調節は除く）	講義																																																	
4	身体の支持と運動①	講義																																																	
5	身体の支持と運動②	講義																																																	
6	身体の支持と運動③	講義																																																	
7	情報の受容と処理①	講義																																																	
8	情報の受容と処理②	試験																																																	
9	情報の受容と処理③	講義																																																	
10	身体機能の防御と適応①	講義																																																	
11	身体機能の防御と適応②	講義																																																	
12	身体機能の防御と適応③	講義																																																	
13	生殖・発生と老化のしくみ①	講義																																																	
14	生殖・発生と老化のしくみ②	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	生化学	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 前期	講 義	
担当者	非常勤講師		
授業のねらい	人体の構成成分である化学物質の性状、その分布、及び代謝について学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。現代医療を支えている生化学の最先端の知識についても学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する物質について理解することができる。 2. 生体内の物質代謝について理解することができる。 3. 遺伝情報とその発現について学ぶ。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	生化学を学ぶための基礎知識	講義
	2	代謝の基礎と酵素・補酵素① 酵素	講義
	3	代謝の基礎と酵素・補酵素② ビタミン	講義
	4	代謝の基礎と酵素・補酵素③ 水と電解質	講義
	5	糖質の構造と機能① 糖質代謝	講義
	6	脂質の構造と機能② 脂質代謝	講義
	7	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	講義
	8	消化吸収	講義
	9	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義
	10	遺伝子と拡散 遺伝子の複製・修復・組み換え	講義
	11	転写	講義
	12	翻訳と翻訳後修飾	講義
	13	シグナル伝達	講義
	14	がん	講義
15	終講試験 まとめ	試験	
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	臨床栄養学	単位数 1	時間数 15(8回)																											
開 講	1年次 後期	講 義																												
担当者	非常勤講師																													
授業のねらい	<p>栄養とは、生体が必要な物質を体外から取り入れて、発育・成長および生命の維持に利用し、健全な生命活動を営むことである。食生活が人の健康に与える影響は大きく、栄養は欠くことができない。したがって、「人」にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて、栄養の基本的概念について学ぶとともに、健康の維持増進、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。</p>																													
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間栄養学の基本を理解する。 2. 健康の保持・増進、健康障害の予防と栄養の関わりについて理解する。 3. 成長発達や加齢による栄養状態の変化と食事、管理について理解する。 4. 疾病や障害時の食事療法について理解する。 																													
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>人間栄養学と看護 栄養学を学ぶということ 栄養学の基礎知識</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>栄養素の種類とはたらき</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>エネルギー代謝</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>栄養状態の評価・判定</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>臨床栄養① 病院食</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>臨床栄養② 主な疾患別食事療法の実際 循環器疾患患者の栄養療法 栄養-代謝疾患患者の栄養療法 腎泌尿器疾患患者の栄養療法</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>健康づくりと食生活 食事と食文化 食生活の改善への施策 食の安全性と表示</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>終講試験</td> <td style="text-align: center;">試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	人間栄養学と看護 栄養学を学ぶということ 栄養学の基礎知識	講義	2	栄養素の種類とはたらき	講義	3	エネルギー代謝	講義	4	栄養状態の評価・判定	講義	5	臨床栄養① 病院食	講義	6	臨床栄養② 主な疾患別食事療法の実際 循環器疾患患者の栄養療法 栄養-代謝疾患患者の栄養療法 腎泌尿器疾患患者の栄養療法	講義	7	健康づくりと食生活 食事と食文化 食生活の改善への施策 食の安全性と表示	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																												
1	人間栄養学と看護 栄養学を学ぶということ 栄養学の基礎知識	講義																												
2	栄養素の種類とはたらき	講義																												
3	エネルギー代謝	講義																												
4	栄養状態の評価・判定	講義																												
5	臨床栄養① 病院食	講義																												
6	臨床栄養② 主な疾患別食事療法の実際 循環器疾患患者の栄養療法 栄養-代謝疾患患者の栄養療法 腎泌尿器疾患患者の栄養療法	講義																												
7	健康づくりと食生活 食事と食文化 食生活の改善への施策 食の安全性と表示	講義																												
8	終講試験	試験																												
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 医学書院																													
成績評価方法	筆記試験																													

科 目	薬理学	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	<p>薬理学の学習は数多くある治療薬の断片的な知識だけでなく、個々の疾患における治療効果の発現と副作用の発現の仕組みを体系付けて理解することを目指す。</p> <p>始めに薬物一般に共通する基礎知識を学ぶ。薬の投与経路と薬物動態について理解し、続いて薬の作用と有害作用が及ぼす人体への影響について理解する。さらに医薬品の取り扱いや管理について学ぶ。次に主な疾患の治療薬の特徴・作用機序・有害作用について学ぶ。これらの学びを臨床薬理への足掛かりとする。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の投与経路、薬物動態などの基礎知識に基づき、薬の人体への影響について理解し、説明できる。 2. 薬の取り扱いおよび管理について理解し、説明できる。 3. 主な疾患の治療薬の特徴・作用・有害作用について理解し、説明できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	薬理学総論① ・薬物治療と看護 ・薬が作用するしくみ(薬理学) ・投与経路	講義		
	2	薬理学総論② ・薬物動態、薬物相互作用	講義		
	3	薬理学総論③ ・薬効の個人差に影響する因子 ・高齢者への薬物投与 ・薬物使用の有益性と危険性 ・薬と法律	講義		
	4	抗感染症薬・抗がん薬 ・抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬 ・感染症治療における問題点 ・抗がん薬の種類と副作用 ・がん性疼痛の治療	講義		
	5	免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬 ・免疫抑制剤と免疫増強薬 ・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ・炎症と抗炎症薬	講義		

	6	末梢での神経活動に作用する薬物① ・神経系による情報伝達と薬物 ・交感神経作用薬	講義
	7	末梢での神経活動に作用する薬物② ・副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	講義
	8	中枢神経系に作用する薬物① ・中枢神経の働きと薬物 ・催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬	
	9	中枢神経系に作用する薬物② ・抗うつ薬、気分安定薬・パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬・麻薬性鎮痛薬・鎮咳薬	講義
	10	循環器系に作用する薬物① ・降圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬・抗不整脈薬	講義
	11	循環器系に作用する薬物② ・利尿薬・脂質異常症治療薬・血液凝固系 ・線溶系に作用する薬物	講義
	12	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 ・気管支喘息治療薬・消化性潰瘍治療薬	講義
	13	物質代謝に作用する薬物 ・糖尿病治療薬 ・皮膚科用薬、眼科用薬、救急の際に使用される薬物	講義
	14	消毒薬 看護業務に必要な薬の知識 ・薬の単位・処方箋・添付文書	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	微生物学	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	非常勤講師		
授業のねらい	生活の中では、様々な微生物に触れる機会が多くあるが、あまり意識していないことが多い。目には触れることのない微生物の世界を知ること、人間の健康の理解や疾患の観察、判断に役立つ知識の基礎を学ぶ機会とする。ここでは微生物の概要、病原微生物による感染とそれに対する生体防御機構、そして感染が個人や社会に及ぼす影響について学び、さらに院内感染の防止や二次感染の予防に必要な基礎的な知識を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の感染により、生体に起こる影響を理解する。 2. 病原微生物の種類と特徴を理解する。 3. 感染予防に必要な基礎的知識を身につけられる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	微生物と微生物学 微生物の性質 微生物学の歩み	講義
	2	細菌の性質 細菌の形態と特徴 培養環境と栄養 細菌の遺伝	講義
	3	真菌の性質	講義
	4	原虫の性質	講義
	5	ウイルスの性質 ウイルスの特徴・増殖・分類	講義
	6	感染と感染症 微生物感染の機構	講義
	7	感染に対する生体防御機構① 自然免疫	講義
	8	感染に対する生体防御機構② 感染の徴候と症状	講義
	9	感染の予防 滅菌と消毒 ワクチンと予防接種	講義
	10	感染症の検査と診断	講義
	11	感染症の治療 化学療法の基本 各種の化学療法薬	講義
	12	感染症対策	講義
	13	病原性細菌①	講義
	14	病原性細菌②	講義
15	終講試験 まとめ	試験	
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕微生物学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	病理学	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	1年次 後期	講 義																																																	
担当者	非常勤講師																																																		
授業のねらい	この講義では、疾病の原因、発生機序、経過および転記などを主に形態学の面から学習し、病理学に対する理解を深め、看護師として適切な医療業務を行うための基本的知識を身につける。そのために、様々な疾病をカテゴリーごとに分類整理し、疾病の原因や成り立ち、疾病に起因する細胞や組織の変化や疾病の人体への影響を系統的に学習していくことにより、健康破綻した身体の理解を深め、専門分野の看護学の理解に役立てる。																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病因と病変によって生体の臓器組織に現れる形態・機能・代謝の変化を理解する。 2. 健康を障害している原因として、疾病の成り立ちを理解し、どのように生活を整えることで、疾病の予防や健康の回復ができるのかを理解する。 																																																		
講義内容	授業計画及び学習の内容																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病理で学ぶこと 先天異常と遺伝子異常 退行性病変 進行性病変 全身に及ぼす影響</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>循環障害 炎症・免疫・膠原病・アレルギー</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>感染症</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>代謝障害 老化と死</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>先天異常と遺伝子異常 腫瘍</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>循環器疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>血液・造血器系疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>呼吸器系疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>消化器系疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>腎臓・泌尿器・生殖器・乳房疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>内分泌疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>脳・神経・筋肉系の疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>骨・関節系の疾患・眼・耳・皮膚の疾患</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>病理診断の実際</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	病理で学ぶこと 先天異常と遺伝子異常 退行性病変 進行性病変 全身に及ぼす影響	講義	2	循環障害 炎症・免疫・膠原病・アレルギー	講義	3	感染症	講義	4	代謝障害 老化と死	講義	5	先天異常と遺伝子異常 腫瘍	講義	6	循環器疾患	講義	7	血液・造血器系疾患	講義	8	呼吸器系疾患	講義	9	消化器系疾患	講義	10	腎臓・泌尿器・生殖器・乳房疾患	講義	11	内分泌疾患	講義	12	脳・神経・筋肉系の疾患	講義	13	骨・関節系の疾患・眼・耳・皮膚の疾患	講義	14	病理診断の実際	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	病理で学ぶこと 先天異常と遺伝子異常 退行性病変 進行性病変 全身に及ぼす影響	講義																																																	
2	循環障害 炎症・免疫・膠原病・アレルギー	講義																																																	
3	感染症	講義																																																	
4	代謝障害 老化と死	講義																																																	
5	先天異常と遺伝子異常 腫瘍	講義																																																	
6	循環器疾患	講義																																																	
7	血液・造血器系疾患	講義																																																	
8	呼吸器系疾患	講義																																																	
9	消化器系疾患	講義																																																	
10	腎臓・泌尿器・生殖器・乳房疾患	講義																																																	
11	内分泌疾患	講義																																																	
12	脳・神経・筋肉系の疾患	講義																																																	
13	骨・関節系の疾患・眼・耳・皮膚の疾患	講義																																																	
14	病理診断の実際	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 医学書院																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	病態生理学 I	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	<p>看護師を目指す者として、医学や医療について一般的な知識、とりわけ医学全般にわたる基礎的知識を学ぶことは不可欠である。</p> <p>しかしながら、医療の複雑化・多様化や、専門分野の細分化が急加速で進み、その進歩に追随していくことは決して容易なことではない。従って、看護師として医学を学ぶ際に必要不可欠な病態の理解と、それに沿った診断・治療の方法を、できる限り理解しやすいように視覚的な教材を使用し学び、看護者として専門的判断ができる素地を養う。</p> <p>また、既習の解剖学・生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物学などの知識を想起し、病態生理学の基礎知識の習得と、更なる専門知識の習得をめざす。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康を障害している原因として疾病の成り立ちを理解できる。 疾病の診断、治療、予防につなげて学ぶ。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	担当	テキスト	方法
	1	呼吸器疾患の症状と病態生理 肺炎の診断・治療	看護 非常勤講師	①⑤	講義
	2	肺癌の診断・治療	内科 (呼吸器系)	①⑥	講義
	3	喘息の診断・治療 慢性閉塞性肺 疾患 (COPD) の診断・治療	内科 (呼吸器系)	①⑥	講義
	4	呼吸器疾患の手術の基礎知識	外科 (呼吸器系)	①⑥	講義
	5	循環器疾患の症状と病態生理①	看護 非常勤講師	②⑤	講義
	6	循環器疾患の症状と病態生理② 心電図の基礎 (不整脈含む)	看護 非常勤講師	②⑤	講義
	7	虚血性心疾患の診断・治療	内科 (循環器系)	②⑥	講義
	8	高血圧の診断・治療 解離性大動脈瘤の診断・治療	内科 (循環器系)	②⑥	講義
	9	心臓弁膜症の診断・治療 心不全の診断・治療	内科 (循環器系)	②⑥	講義

	10	循環器疾患の手術の基礎知識	外科 (循環器系)	②⑦	講義
	11	血液・造血器疾患の症候とその病態生理 貧血の診断・治療	看護 非常勤講師	③⑤	講義
	12	白血病の診断・治療(造血幹細胞移植含む)	内科 (血液・造血器)	③⑥	講義
	13	血友病の診断・治療 播種性血管内凝固症候群の診断・治療	内科 (血液・造血器)	③⑥	講義
	14	感染に対する病態の基礎知識	内科 (感染・免疫 アレルギー)	④	講義
	15	終講試験 まとめ			試験
テキスト	系統看護学講座 医学書院 ① 成人看護学[2] 呼吸器 ② 成人看護学[3] 循環器 ③ 成人看護学[4] 血液・造血器 ④ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 ⑤ 臨床看護総論 ⑥ 老年看護 病態・疾病論 ⑦ 別巻 臨床外科看護各論				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	病態生理学Ⅱ		単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前期		講 義			
担当者	非常勤講師					
授業のねらい	<p>看護師を目指す者として、医学や医療について一般的な知識、とりわけ医学全般にわたる基礎的知識を学ぶことが不可欠である。</p> <p>しかしながら、医療の複雑化・多様化や、専門分野の細分化が急加速で進み、その進歩に追随していくことは決して容易なことではない。従って、看護師として医学を学ぶ際に必要不可欠な病態の理解と、それに沿った診断・治療の方法を、できる限り理解しやすいように視覚的な教材を使用し学び、看護者として専門的判断ができる素地を養う。</p> <p>また、既習の解剖学・生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物学などの知識を想起し、病態生理学の基礎知識の習得と更なる専門知識の習得をめざす。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康を障害している原因として疾病の成り立ちを理解する。 疾病の診断、治療、予防につなげて学ぶ。 					
講義内容	授業計画及び学習の内容					
	回数	内 容	担当	テキスト	方法	
	1	消化器疾患の症状その病態生理	看護 非常勤講師	①④	講義	
	2	食道・胃・十二指腸疾患の 診断・治療	内科 (消化器)	①⑤	講義	
	3	膵臓・胆のう・肝臓疾患の 診断・治療	内科 (消化器)	①⑤	講義	
	4	消化器疾患の手術の基礎知識① (上部・消化管・肝臓、胆のう疾患)	外科 (消化器)	①⑥	講義	
	5	消化器疾患の手術の基礎知識② (下部消化管、膵臓疾患)	外科 (消化器)	⑥	講義	
	6	腎・泌尿器疾患の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	③④	講義	
	7	腎炎・ネフローゼ・腎不全の診断・治療①	内科 (腎臓)	③⑤	講義	
	8	腎炎・ネフローゼ・腎不全の診断・治療②	内科 (腎臓)	③⑤	講義	
	9	骨盤内・泌尿器疾患の診断・治療	泌尿器科	③	講義	

	10	泌尿器疾患の手術の基礎知識	泌尿器科	③⑥	講義
	11	内分泌疾患の症状とその病態生理①	看護 非常勤講師	②⑤	講義
	12	代謝疾患の診断・治療	看護 非常勤講師	②	講義
	13	内分泌疾患の診断・治療	内科 (代謝)	②	講義
	14	甲状腺手術の基礎知識	内科 (内分泌)	②⑥	講義
	15	終講試験 まとめ			試験
テキスト	系統看護学講座 医学書院 ① 成人看護学[5] 消化器 ② 成人看護学[6] 内分泌・代謝 ③ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 ④ 臨床看護総論 ⑤ 老年看護 病態・疾病論 ⑥ 別巻 臨床外科看護各論				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	病態生理学Ⅲ		単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 後期		講 義			
担当者	非常勤講師					
授業のねらい	<p>看護師を目指す者として、医学や医療について一般的な知識、とりわけ医学全般にわたる基礎的知識を学ぶことが不可欠である。</p> <p>しかしながら、医療の複雑化・多様化や、専門分野の細分化が急加速で進み、その進歩に追随していくことは決して容易なことではない。従って、看護師として医学を学ぶ際に必要不可欠な病態の理解と、それに沿った診断・治療の方法を、できる限り理解しやすいように視覚的な教材を使用し学び、看護者として専門的判断ができる素地を養う。</p> <p>また、既習の解剖学・生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物学などの知識を想起し、病態生理学の基礎知識の習得と更なる専門知識の習得をめざす。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康を障害している原因として疾病の成り立ちを理解する。 疾病の診断、治療、予防につなげて学ぶ。 					
講義内容	授業計画及び学習の内容					
	回数	内 容	担当	テキスト	方法	
	1	脳・神経系疾患の症状とその病態生理 ①	看護 非常勤講師	①④	講義	
	2	脳・神経系疾患の症状とその病態生理 ②	看護 非常勤講師	①④	講義	
	3	末梢神経障害の診断・治療	神経内科	①⑤	講義	
	4	脱髄・変性疾患、認知症（アルツハイマー）疾患の診断・治療	神経内科	①②⑤	講義	
	5	筋疾患・神経筋接合部疾患の診断・治療	神経内科	①②⑤	講義	
	6	脳疾患（脳血管疾患・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症）の診断・治療 ①	脳外科	①⑤⑦	講義	
	7	脳疾患（脳血管疾患・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症）の診断・治療 ②	脳外科	①⑤⑦	講義	
	8	運動器疾患の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	②④⑤	講義	
	9	外傷性（外因性）の運動器疾患の診断・治療（骨折、脱臼、脊髄損傷）	整形外科	②⑤ ⑥	講義	

	10	非外傷性（内因性）の運動器疾患の診断・治療 （変形性関節症、椎間板ヘルニア）	整形外科	③⑥	講義
	11	運動器系障害とリハビリテーション 呼吸器・循環器系障害とリハビリテーション	理学療法	⑧	講義
	12	中枢神経系障害とリハビリテーション	作業療法	⑧	講義
	13	アレルギー疾患の症状とその病態生理 自己免疫疾患の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	③⑥	講義
	14	自己免疫疾患（関節リウマチ、SLE など）の診断・治療	内科 （膠原病）	③	講義
	15	終講試験 まとめ			試験
テキスト	系統看護学講座 医学書院 ① 成人看護学[7] 脳・神経 ② 成人看護学[10] 運動器 ③ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 ④ 臨床看護総論 ⑤ 老年看護 病態・疾病論 ⑥ 小児看護学[3] 小児臨床看護各論 ⑦ 別巻 臨床外科看護各論 ⑧ 別巻 リハビリテーション看護				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	病態生理学Ⅳ		単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 後期		講 義			
担当者	非常勤講師					
授業のねらい	<p>看護師を目指す者として、医学や医療について一般的な知識、とりわけ医学全般にわたる基礎的知識を学ぶことが不可欠である。</p> <p>しかしながら、医療の複雑化・多様化や、専門分野の細分化が急加速で進み、その進歩に追随していくことは決して容易なことではない。従って、看護師として医学を学ぶ際に必要不可欠な病態の理解と、それに沿った診断・治療の方法を、できる限り理解しやすいように視覚的な教材を使用し学び、看護者として専門的判断ができる素地を養う。</p> <p>また、既習の解剖学・生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物学などの知識を想起し、病態生理学の基礎知識の習得と更なる専門知識の習得をめざす。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康を障害している原因として疾病の成り立ちを理解する。 疾病の診断、治療、予防につなげて学ぶ。 					
講義内容	授業計画及び学習の内容					
	回数	内 容	担当	テキスト	方法	
	1	女性生殖器の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	①	講義	
	2	子宮の疾患の診断・治療	婦人科	①	講義	
	3	卵管・卵巣・骨盤内炎症性疾患の診断・治療	婦人科	①	講義	
	4	乳房手術の基礎知識	外科 (乳房)	①⑧	講義	
	5	表在性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎など）・感染症・熱傷・腫瘍および色素異常症の診断・治療	皮膚科	②⑦	講義	
	6	眼疾患の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	③	講義	
	7	斜視・白内障・緑内障・網膜剥離の診断・治療	眼科	③⑦	講義	
	8	耳鼻咽喉・頸部の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	④	講義	

	9	中耳炎・副鼻腔疾患・メニエル病の診断・治療	耳鼻科	④⑦	講義
	10	扁桃炎・喉頭がんの診断・治療	耳鼻科	④	講義
	11	歯・口腔疾患の症状とその病態生理	看護 非常勤講師	⑤	講義
	12	歯の異常と歯周組織の疾患・歯と顎骨の外傷 先天異常及び発育異常の診断・治療	口腔外科	⑤⑦	講義
	13	放射線医学の成り立ち 画像診断	放射線科	⑨	講義
	14	放射線治療（核医学） 放射線による障害と防護	放射線科	⑨	講義
	15	終講試験 まとめ			試験
テキスト	系統看護学講座 医学書院 ① 成人看護学[9] 女性生殖器 ② 成人看護学[12] 皮膚 ③ 成人看護学[13] 眼 ④ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 ⑤ 成人看護学[15] 歯・口腔 ⑥ 老年看護 病態・疾病論 ⑦ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 ⑧ 別巻 臨床外科看護各論 ⑨ 別巻 臨床放射線医学				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	ヘルスアセスメント I	単位数 1	時間数 15(8回)																											
開 講	2年次 前期	講 義																												
担当者	専任教員（実務経験あり）																													
授業のねらい	<p>医療技術の進歩や疾病構造の複雑化、患者の多様化に伴い、高度な看護実践能力が求められている。しかし、現在の基礎看護教育における臨地実習では、在院日数の短縮化により学生が実習期間を通して一人の患者を受け持つことが難しく、じっくり指向すること、最も必要とされる看護を導き出すこと、対象の安全安楽を担保した援助技術の提供が厳しくなっている。</p> <p>このような状況を踏まえて、学内において、アクティブラーニングにより基礎知識や臨床知識の強化、チームコミュニケーションの向上を図り、臨床判断能力、臨床実践力を身につける。</p>																													
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を身体的・心理的・社会的側面から、統合体としてアセスメントする意義が理解できる。 2. アセスメントした内容から看護の必要性や根拠を述べることができる。 3. ヘルスアセスメントを行ううえでの倫理的配慮・礼節・態度を遵守できる。 																													
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>ヘルスアセスメントの概要 看護過程におけるアセスメントの重要性、ヘルスアセスメントとは、情報収集と看護データベース、倫理的配慮</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>ヘルスアセスメントの基本技術①面接、問診、観察、測定</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>ヘルスアセスメントの基本技術②身体計測、記録</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>ヘルスアセスメントの実際① ケース 1（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>ヘルスアセスメントの実際② ケース 2（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>ヘルスアセスメントの実際③ ケース 3（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>まとめ</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>終講試験</td> <td style="text-align: center;">試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	ヘルスアセスメントの概要 看護過程におけるアセスメントの重要性、ヘルスアセスメントとは、情報収集と看護データベース、倫理的配慮	講義	2	ヘルスアセスメントの基本技術①面接、問診、観察、測定	講義	3	ヘルスアセスメントの基本技術②身体計測、記録	講義	4	ヘルスアセスメントの実際① ケース 1（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習	5	ヘルスアセスメントの実際② ケース 2（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習	6	ヘルスアセスメントの実際③ ケース 3（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習	7	まとめ	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																												
1	ヘルスアセスメントの概要 看護過程におけるアセスメントの重要性、ヘルスアセスメントとは、情報収集と看護データベース、倫理的配慮	講義																												
2	ヘルスアセスメントの基本技術①面接、問診、観察、測定	講義																												
3	ヘルスアセスメントの基本技術②身体計測、記録	講義																												
4	ヘルスアセスメントの実際① ケース 1（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習																												
5	ヘルスアセスメントの実際② ケース 2（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習																												
6	ヘルスアセスメントの実際③ ケース 3（シナリオ） 問診、視診、打診、全身状態の観察 対象のアセスメント	演習																												
7	まとめ	講義																												
8	終講試験	試験																												
テキスト	<p>講師作成の資料 系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 熊谷たまき他監修：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディカ</p>																													
成績評価方法	筆記試験																													

科 目	ヘルスアセスメントⅡ	単位数 1	時間数 15(8回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	<p>医療技術の進歩や疾病構造の複雑化、患者の多様化に伴い、高度な看護実践能力が求められている。しかし、現在の基礎看護教育における臨地実習では、在院日数の短縮化により学生が実習期間を通して一人の患者を受け持つことが難しく、じっくり指向すること、最も必要とされる看護を導き出すこと、対象の安全安楽を担保した援助技術の提供が厳しくなっている。</p> <p>このような状況を踏まえて、学内において、アクティブラーニングにより基礎知識や臨床知識の強化、チームコミュニケーションの向上を図り、臨床判断能力、臨床実践力を身につける。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康に関する包括的な情報収集を行い、その情報を質的・量的に分析し、必要な援助を実施・評価する。 ヘルスアセスメントを行ううえでの倫理的配慮・礼節・態度を遵守できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	ヘルスアセスメントの実際① シミュレーターなどを活用 情報収集	演習
	2	ヘルスアセスメントの実際② シミュレーターなどを活用 情報の妥当化	演習
	3	ヘルスアセスメントの実際③ シミュレーターなどを活用 アセスメント	演習
	4	ヘルスアセスメントの実際④ シミュレーターなどを活用 ヘルスアセスメントの視点	演習
	5	ヘルスアセスメントの実際⑤ シミュレーターなどを活用 ヘルスアセスメントの視点	演習
	6	ヘルスアセスメントの実際⑥ シミュレーターなどを活用 評価	演習
	7	グループ発表	講義
	8	まとめ	試験
テキスト	講師作成の資料		
成績評価方法	レポート、グループワーク発表内容		

科 目	健康と病気のしくみ	単位数 1	時間数 15(8回)																											
開 講	1年次 後期	講 義																												
担当者	非常勤講師																													
授業のねらい	<p>本科目では、まず生命維持がどのようなメカニズムで行われているか健康な身体のしくみについて理解する。次に健康な身体のしくみがどのように変化して異常を起こすのかを解剖学、生理学、生化学などの既習の知識を活用しながら解剖から機能、障害(症状)、疾患まで関連付けて学ぶ。これらの学びから臨床判断につながるアセスメント能力の向上を図りたい。</p> <p>特に“知識を関連づける”学習を体験する。</p>																													
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な身体のしくみを理解することができる。 2. 異常が起こるメカニズムを理解することができる。 3. アセスメント能力を向上できる。 																													
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康な身体のしくみ① 代謝・吸収・消化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>健康な身体のしくみ② 尿の生成 中枢神経</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>健康な身体のしくみ③ 循環</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>健康な身体のしくみ④ 呼吸 免疫・血液</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>身体の異常のメカニズム① 呼吸器系 (慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体の異常のメカニズム② 循環器系 (心筋梗塞・狭心症・心不全・高血圧)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>身体の異常のメカニズム③ 血液系(白血病)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	健康な身体のしくみ① 代謝・吸収・消化	講義	2	健康な身体のしくみ② 尿の生成 中枢神経	講義	3	健康な身体のしくみ③ 循環	講義	4	健康な身体のしくみ④ 呼吸 免疫・血液	講義	5	身体の異常のメカニズム① 呼吸器系 (慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎)	講義	6	身体の異常のメカニズム② 循環器系 (心筋梗塞・狭心症・心不全・高血圧)	講義	7	身体の異常のメカニズム③ 血液系(白血病)	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																												
1	健康な身体のしくみ① 代謝・吸収・消化	講義																												
2	健康な身体のしくみ② 尿の生成 中枢神経	講義																												
3	健康な身体のしくみ③ 循環	講義																												
4	健康な身体のしくみ④ 呼吸 免疫・血液	講義																												
5	身体の異常のメカニズム① 呼吸器系 (慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎)	講義																												
6	身体の異常のメカニズム② 循環器系 (心筋梗塞・狭心症・心不全・高血圧)	講義																												
7	身体の異常のメカニズム③ 血液系(白血病)	講義																												
8	終講試験	試験																												
テキスト	講師作成の資料																													
成績評価方法	筆記試験																													

科 目	公衆衛生学	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 前期	講 義	
担当者	非常勤講師		
授業のねらい	<p>「公衆衛生学」とは「生」を「衛る」科学であり、病気になる前の「予防」が重要である。統計情報をもとにグローバルな視点から、個人や集団組織・地域の健康について考え問題解決の方向を考える。</p> <p>人口の急増、食糧不足、感染症の変化など、地球環境との関連も学ぶ。</p>		
授業の到達目標	健康増進、疾病予防のために公衆衛生に関する統計情報を理解し、疾病構造の変化や在宅療養者の問題など、公衆衛生活動について理解する。		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	公衆衛生の課題 人口問題と出生死亡	講義
	2	疫学的方法による健康理解	講義
	3	日常生活環境と健康	講義
	4	環境汚染と公害	講義
	5	栄養と健康	講義
	6	感染症とその予防	講義
	7	薬害	講義
	8	健康教育成人保健・生活習慣病	講義
	9	産業保健	講義
	10	精神保健	講義
	11	母子保健	講義
	12	学校保健	講義
	13	高齢者保健・在宅ケア	講義
	14	国際保健	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	松浦賢長他編 コンパクト公衆衛生学 朝倉書店		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	社会福祉	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	非常勤講師				
授業のねらい	人は、生まれてから死ぬまでの生活において、個人の努力だけでは安定した生活を営むことはできず、社会保障制度、社会福祉制度を活用して生活の安定化を図り、自立した生活を望む。人間の健康にかかわる看護職として、健康や障害に応じて社会資源を活用できるように必要な知識を学ぶ。また保健・医療・福祉に関係する職種の役割を学ぶ。				
授業の到達目標	人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じた社会資源を活用するためのシステムを理解できる。それとともに、その中での看護の役割を理解し共同して援助できる能力を養う。				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	社会保障制度と社会福祉（1）			講義
	2	社会保障制度と社会福祉（2）			講義
	3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向（1）			講義
	4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向（2）			講義
	5	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向（3）			講義
	6	医療保障			講義
	7	介護保障			講義
	8	所得保障			講義
	9	公的扶助			講義
	10	社会福祉の分野とサービス（1）			講義
	11	社会福祉の分野とサービス（2）			講義
	12	社会福祉実践と医療・看護（1）			講義
	13	社会福祉実践と医療・看護（2）			講義
	14	社会福祉の歴史			講義
15	終講試験 まとめ			試験	
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕社会福祉 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	看護関係法令	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要と、それを規定する諸法令を理解し、社会において看護師がどのような役割を受け持っているか認識する。またこれらの法令を単に知識として学ぶだけではなく、なぜこのような内容になっているのか、看護との関係はどのようなのかについて、日常生活や実習での経験、さらに書籍・テレビ・新聞・インターネットなどからの情報とも関連付けて考える。				
授業の到達目標	法律の基礎を理解し、健康を維持していく上でどのような法律があるのかを知り、その中で専門職の果たす役割を理解する。				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	日本国憲法 法の概念・衛生法	講義		
	2	看護法 保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義		
	3	医事法 医療法・医療関係資格法・医療を支える法	講義		
	4	保健衛生法	講義		
	5	薬務法	講義		
	6	社会保険法	講義		
	7	福祉法・環境法	講義		
	8	終講試験	試験		
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	臨床医療	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	看護師は医療現場において、最終的な医療行為者や観察者になる事が多く、わずかな間違いや観察不足が患者の重大な障害に結びつくという日常に身を置いている。そこで、医療行為、医薬品、医療用機器が患者に与える影響を理解し、さらに演習においてシミュレーターを用いて一次救命処置の実際を学ぶ。多職種との協力を念頭に、医療現場だけでなく社会のあらゆる場で対応できるように学ぶ。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療用機器を安全安楽に使用するための基礎知識と看護が理解できる。 2. 医療用機器の原理と実際について理解できる。 3. 基本的な救急処置について学ぶ。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	医療用機器を使用するための基礎知識と看護① 安全の確保 安楽への配慮	講義		
	2	医療用機器の原理と実際① 医療用機器を安全に使うために 医療機器を使用する環境	講義		
	3	医療用機器の原理と実際② 測定用医療機器の原理と実際 治療用医療機器の原理と実際	講義		
	4	医療用機器を使用するための基礎知識と看護② 日常生活維持への援助	講義		
	5	救命救急処置の基礎知識 救急・急変における初期対応 心肺蘇生法の基礎知識 止血法の基礎知識と実際	講義 演習		
	6	救急蘇生法演習① 心肺蘇生モデル(シミュレーター)を用いた心肺蘇生	演習		
	7	救急蘇生法演習② 心肺蘇生モデル(シミュレーター)を用いた心肺蘇生	演習		
	8	終講試験	試験		
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
成績評価方法	筆記試験及び出席状況				

科 目	総合医療論	単位数	1	時間数	15(8回)																											
開 講	2年次 前期	講 義																														
担当者	非常勤講師																															
授業のねらい	医療と看護の原点は、自立しようとする人々への「援助」の活動であり、その対象は病を経験している人のみならず、病を持ちながら生活している人、より健康を目指しながら生活する人など幅広い。こうした対象者(生活者)の生活をより良いものとするために、医療や看護はどのような役割があるのか学ぶ。また必要な保健・医療・福祉の視点を総合的に学習し、迅速な判断を行う能力や客観的な合理性に基づいて、統合的に問題を解決していく能力の必要性を学ぶ。																															
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歩みと医療観の変遷、医療を受ける生活者について理解し、保健医療福祉の中で看護の果たす役割を考えることができる。 2. 生活者が必要としている保健・医療・福祉と医療者に必要な姿勢について理解を深め、医療を見つめなおす視点を考えることができる。 																															
講義内容	授業計画及び学習の内容																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療と看護の原点</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療の歩みと医療観の変遷</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>私たちの生活と健康</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>科学技術の進歩と現代医療の最前線</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>現在医療の新たな課題</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>医療を見つめなおす新しい視点</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>保健・医療・福祉の潮流</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	医療と看護の原点	講義	2	医療の歩みと医療観の変遷	講義	3	私たちの生活と健康	講義	4	科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義	5	現在医療の新たな課題	講義	6	医療を見つめなおす新しい視点	講義	7	保健・医療・福祉の潮流	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																														
1	医療と看護の原点	講義																														
2	医療の歩みと医療観の変遷	講義																														
3	私たちの生活と健康	講義																														
4	科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義																														
5	現在医療の新たな課題	講義																														
6	医療を見つめなおす新しい視点	講義																														
7	保健・医療・福祉の潮流	講義																														
8	終講試験	試験																														
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論 医学書院																															
成績評価方法	筆記試験																															

科 目	法制度と生活支援	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	<p>日本国憲法において、我が国に暮らす人々は基本的人権を守られ、健康で文化的な最低限度の生活が保障されている。看護者は何らかの健康問題があっても、人々が住み慣れた地域で、その人らしく生活できるように権利を擁護し、支援する役割がある。そのため、医療や看護に関係する制度や政策を知識として学ぶだけではなく実践と結び付けて理解する必要がある。</p> <p>本科目では、地域で暮らす人々の事例を通し、社会の仕組みや必要となる法制度を考え、人々の安心と生活の質の向上を目指した支援について、グループワークを通して学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の生活を支える社会の仕組みや法制度が理解できる 2. 地域で暮らす人々の安心と生活の質の向上を目指した支援を考えることができる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	地域でよりよく生きるということ	講義		
	2	生活を支える法制度	講義		
	3	事例展開① 事例をもとに、生活支援について学習する	演習		
	4	事例展開② 事例をもとに、生活支援について学習する	演習		
	5	事例展開③ 事例をもとに、生活支援について学習する	演習		
	6	事例展開④ 事例をもとに、生活支援について学習する	演習		
	7	グループワークまとめ	講義 演習		
	8	全体まとめ	講義 演習		
テキスト	講師作成の資料				
成績評価方法	レポート、グループワーク発表内容及び出席状況				

専門分野

1. 目的

専門分野では、看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的能力を養う内容とし、成長発達を深く理解し、様々な健康状態にある人々および多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ。また、健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護について学ぶ。そして、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域社会を大きな視野でとらえる。

チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学び看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。そのために、シミュレーション演習や多様な場での実習を行い、臨床判断能力や看護実践能力を身に着けるための知識技術を学ぶ。

2. 科目構成

専門分野

基盤看護学

看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
臨床看護総論	1 単位	15 時間	1 年次
基本技術	1 単位	30 時間	1 年次
生命活動を支える技術	1 単位	30 時間	1 年次
日常生活行動援助技術 I	1 単位	30 時間	1 年次
日常生活行動援助技術 II	1 単位	30 時間	1 年次
診療に伴う技術	1 単位	30 時間	1 年次
基礎看護実践演習	1 単位	30 時間	1 年次
看護過程の展開 I	1 単位	15 時間	1 年次
看護過程の展開 II	1 単位	30 時間	2 年次
看護研究の基礎	1 単位	30 時間	2 年次
地域と暮らし	1 単位	15 時間	1 年次
地域・在宅看護概論	1 単位	30 時間	1 年次
地域包括ケア	1 単位	30 時間	2 年次
地域・在宅看護 I	1 単位	15 時間	2 年次
地域・在宅看護 II	1 単位	30 時間	2 年次
地域・在宅看護過程	1 単位	15 時間	2 年次
精神看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
精神看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
精神看護方法論	1 単位	30 時間	2 年次
精神看護過程	1 単位	15 時間	2 年次

臨床療養看護学

成人・老年看護学概論 I	1 単位	15 時間	1 年次
成人・老年看護学概論 II	1 単位	15 時間	1 年次
成人看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
老年看護対象論	1 単位	30 時間	1 年次
成人看護方法論 I	1 単位	30 時間	2 年次
成人看護方法論 II	1 単位	15 時間	2 年次
成人看護方法論 III	1 単位	15 時間	2 年次
成人看護方法論 IV	1 単位	30 時間	2 年次
高齢者看護 I	1 単位	30 時間	2 年次
高齢者看護 II	1 単位	30 時間	2 年次

成育看護学

母性・小児看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
母性・小児統合援助論	1 単位	15 時間	2 年次
母性看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
小児看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
周産期看護 I	1 単位	30 時間	2 年次
周産期看護 II	1 単位	30 時間	2 年次
小児看護方法論 I	1 単位	30 時間	2 年次
小児看護方法論 II	1 単位	30 時間	2 年次

看護の統合と実践

医療安全	1 単位	30 時間	2 年次
看護管理	1 単位	15 時間	3 年次
災害看護	1 単位	15 時間	3 年次
臨床実践の基礎知識	1 単位	30 時間	3 年次
臨床看護の実践	1 単位	30 時間	3 年次
専門知識の関連と理解	1 単位	30 時間	3 年次

基盤看護学

人々の健康と生活を支援するための基盤となる看護を学ぶ。

基礎看護学領域では、看護の概念や看護の理論体系、基礎看護技術を学び看護実践に活かす。地域・在宅看護論領域では、生活課題や健康問題を抱えながら地域で生活を送る人々と家族へのより良い支援を目指していく。精神看護学領域では、心のしくみや心の健康で社会生活や対人関係に影響していくことを知り、必要な支援と看護について学ぶ。

基礎看護学

1. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における看護の役割について理解し、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や安全に看護援助を適応する方法や看護の展開方法、看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的能力を学ぶ。

2. 目標

- 1) 看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を理解する。
- 2) 看護の対象となる人間および人間の健康について理解する。
- 3) 看護倫理に関する基本的知識を学び、看護実践における倫理について理解する。
- 4) 健康障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護について理解する。
- 5) 看護実践の基礎となる具体的方法について理解する。

3. 科目構成

基礎看護学

看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
臨床看護総論	1 単位	15 時間	1 年次
基本技術	1 単位	30 時間	1 年次
生命活動を支える技術	1 単位	30 時間	1 年次
日常生活行動援助技術 I	1 単位	30 時間	1 年次
日常生活行動援助技術 II	1 単位	30 時間	1 年次
診療に伴う技術	1 単位	30 時間	1 年次
基礎看護実践演習	1 単位	30 時間	1 年次
看護過程の展開 I	1 単位	15 時間	1 年次
看護過程の展開 II	1 単位	30 時間	2 年次
看護研究の基礎	1 単位	30 時間	2 年次

科 目	看護学概論	単位数	1	時間数	30(15回)																		
開 講	1年次 前期	講 義																					
担当者	専任教員（実務経験あり）																						
授業のねらい	<p>看護とは何か、看護師とはどのような職業であるか、看護の対象となる人間とはどのような存在なのかを示し、これから学んでいく看護学の基礎となる概念や知識を学ぶ。</p> <p>人間が持つ様々な特性を理解し総合的に人間を捉え、看護の対象である人間について理解する。人間の健康を生活との関連で考え、人間の特性を様々な側面から理解する。対象理解にあたっては個人としての対象を理解したのちに、集団として国民の健康状態の特徴を把握する。また、人間のライフサイクルと特徴を学ぶ。看護の提供の仕組みでは、サービスとしての看護、看護サービスの管理など理解する。また、看護が現在のかたちになるまでの歴史的変遷と、看護の理論家による看護のとらえ方について看護理論を通して学ぶ機会とする。</p>																						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何か、看護の役割を理解する。 2. 看護の対象となる人間、および人間の健康について理解する。 3. 看護の提供のしくみ、看護活動の場、多職種との連携・協働について理解する。 4. 看護実践における倫理について理解する。 5. 看護実践に活用される主な看護理論を理解する。 6. 看護の国際化における看護活動について理解できる。 																						
講義内容	授業計画及び学習の内容																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業ガイダンス 看護の本質 看護の歴史的変遷 看護の定義、看護の目的</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護の役割機能 自らの役割および他職種の役割の理解 多職種者との連携・協働の理解 看護の継続性と連携</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護の対象理解 人間の「こころ」と「からだ」を知ること</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国民の健康状態と生活① 健康のとらえ方</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国民の健康状態と生活② 国民の健康状態、現代家族とライフスタイル</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	授業ガイダンス 看護の本質 看護の歴史的変遷 看護の定義、看護の目的	講義	2	看護の役割機能 自らの役割および他職種の役割の理解 多職種者との連携・協働の理解 看護の継続性と連携	講義	3	看護の対象理解 人間の「こころ」と「からだ」を知ること	講義	4	国民の健康状態と生活① 健康のとらえ方	講義	5	国民の健康状態と生活② 国民の健康状態、現代家族とライフスタイル	講義
回数	内 容	方法																					
1	授業ガイダンス 看護の本質 看護の歴史的変遷 看護の定義、看護の目的	講義																					
2	看護の役割機能 自らの役割および他職種の役割の理解 多職種者との連携・協働の理解 看護の継続性と連携	講義																					
3	看護の対象理解 人間の「こころ」と「からだ」を知ること	講義																					
4	国民の健康状態と生活① 健康のとらえ方	講義																					
5	国民の健康状態と生活② 国民の健康状態、現代家族とライフスタイル	講義																					

	6	看護の提供者 職業としての看護、看護職の資格、キャリア開発 看護サービス提供の場、多職種者との連携・協働の理解	講義
	7	看護実践と理論① 看護理論とは何か 主な理論家とその理論 理論を看護実践に活用する意義	講義
	8	看護実践と理論② 看護理論とは何か 主な理論家とその理論 理論を看護実践に活用する意義	講義
	9	ナイチンゲール「看護覚書」 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講義 演習
	10	ナイチンゲール「看護覚書」	演習
	11	看護における倫理① 現代社会と倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義
	12	看護における倫理② 看護実践における倫理問題への取り組み	講義
	13	看護提供のしくみ サービスとしての看護、多職種連携の中での看護、看護をめぐる制度と政策、看護サービス管理	講義
	14	広がる看護の活動領域 国際化と看護、災害看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 湯楨ます 他訳：フローレンスナイチンゲール 看護覚え書き ー看護であること 看護でないことー 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます 他訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		
成績評価方法	筆記試験 など		

科 目	臨床看護総論	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	<p>臨床看護総論では、看護の基本として様々な健康上のニーズを持つあらゆる年齢層の人々に、既存の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスやその看護の実際を学ぶ。看護を必要としている人々を広い視野からとらえて看護を考え、基礎看護技術と互いに関連させながら理解を深めていく科目である。</p> <p>看護学の各々の基礎的な知識が、実践の中でどのように統合されているのかを大枠で理解できるようにする。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康状態の経過に基づく看護が理解できる。 2. 主要な症状を示す対象者と家族への看護が理解できる。 3. 治療・処置を受ける対象の看護が理解できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	急性期における看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	2	慢性期における看護 リハビリテーション期における看護 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	3	終末期における看護 安楽に関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	4	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 循環に関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	5	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 排泄に関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	6	活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護	講義		
	7	化学療法を受ける対象への看護 放射線療法を受ける対象への看護	講義		
	8	終講試験	試験		
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院				
成績評価方法	筆記試験				

科 目	基本技術	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	<p>基本技術は、対象となる人々の健康レベルに応じて安全・安楽に配慮し、看護するための基本である知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>看護における技術の特性、原理・原則を理解し、日常生活援助を行うための基本的看護技術である、感染予防・環境・活動と休息について学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助における生活援助技術の特性（安全・安楽・自立）と共通する技術（観察・コミュニケーション・安全など）、生活援助技術（環境調整技術・活動休息の援助技術）の専門的な基礎知識を理解する。 2. 対象の環境調整や活動休息の援助を通じて、日常生活のあり方を考察する。 3. 感染防止の基礎知識が理解できる。 4. ボディメカニクスを活用し、活動と休息の援助技術が習得できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	看護技術とは 看護技術の特徴、看護技術を実践するための安全確保と安楽 実習室探索			講義
	2	環境調整技術 療養生活の環境 病室環境のアセスメントと調整 ベッド周囲の環境整備			講義
	3	看護に共通する技術 衛生的な手洗い 個人防護具（PPE）の装着 ワゴン、トレイ類の消毒			講義 演習
	4	環境調整技術の実際 ① シーツのたたみ方 下シーツ作成			演習
	5	環境調整技術の実際 ② ベッドメーカー			演習
	6	活動休息を促す技術 基本的活動の援助 良い姿勢 ボディメカニクス 体位			講義
	7	活動休息を促す技術 移動（体位変換・歩行・移乗・移動） 体位保持			講義

	8	活動休息を促す技術の実際 ① 体位変換 安楽な体位の保持	演習
	9	活動休息を促す技術の実際 ② 移乗・移送	演習
	10	環境調節技術・活動休息を促す技術 睡眠・休息の援助 就床患者のシーツ交換 看護に共通する技術 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	講義
	11	環境調節技術・活動休息を促す技術の実際 ① 就床患者のシーツ交換	演習
	12	環境調節技術・活動休息を促す技術の実際 ② 就床患者のシーツ交換	演習
	13	看護に共通する技術 無菌操作	演習
	14	技術テスト	試験
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
成績評価方法	<p>筆記試験と技術テストとを合わせて評価する。</p> <p>したがって、筆記試験、技術テストどちらかを理由*なく無断で欠席した場合は試験放棄となる。</p> <p>*理由とは、成績評価及び卒業規程 第8条に基づく理由。(学生便覧参照)</p>		

科 目	生命活動を支える技術	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	バイタルサインとは、人間が生きていることを示す重要な徴候を意味する。特にバイタルサインで重要なことは、正確な情報を得るために、対象の状況に合わせて測定すること、そして得られた情報を基に生命徴候を把握し、その後の看護ケアに随時活かしていくことである。そのためには手順だけでなく正確な測定技術を根拠とともに身に付けることが必要である。また、得られた情報をアセスメントし、必要な援助を実施していくことを学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における情報収集と観察の意味が理解できる。 2. バイタルサインに関する変動因子を知り、測定の根拠や技術の基本を身に付け的確な観察技術を習得する。 3. 体温調整技術の種類と適応が理解できる。 4. 酸素吸入および吸引の基礎知識が理解できる。 5. 呼吸・循環・腹部のフィジカルアセスメントが理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントにおける観察	講義
	2	バイタルサインの観察・記録・報告の意義 体温の観察と測定方法	講義
	3	脈拍・呼吸の観察	講義
	4	血圧の観察	講義
	5	血圧測定の実際	演習
	6	バイタルサインの観察・記録・報告の実際	演習
	7	体温調節の技術	講義
	8	体温調節の技術の実際（罨法）	演習
	9	酸素吸入、吸引	講義

	10	酸素吸入と吸引の実際	演習
	11	フィジカルイグザミネーション 主観的情報、客観的情報、コミュニケーション技術 視診・触診・打診・聴診	講義
	12	フィジカルアセスメント 呼吸器系：胸郭・肺 循環器系：頸部・胸部・末梢循環 消化器系：腹部	講義
	13	フィジカルアセスメントの実際 呼吸器系：胸郭・肺 循環器系：頸部・胸部・末梢循環 消化器系：腹部	演習
	14	技術テスト	試験
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所編集：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		
成績評価方法	筆記試験と技術テストとを合わせて評価する。 したがって、筆記試験、技術テストどちらかを理由*なく無断で欠席した場合は 試験放棄となる。 *理由とは、成績評価及び卒業規程 第8条に基づく理由。(学生便覧参照)		

科 目	日常生活行動援助技術 I	単位数 1	時間数 30(15回)																														
開 講	1年次 後期	講 義																															
担当者	専任教員（実務経験あり）																																
授業のねらい	<p>個人の日常生活は、生活史やその環境によって異なり、個別的であり自立的であることを教授し、個人が日常生活に支障をきたしたり健康障害のあらゆるレベルで医療機関を利用したり、その可能性を抱える時どのような援助があるのかについて演習を通して理解し適切な援助行為が行えるようにする。</p> <p>健康を害している人に対する食事のとり方や栄養補給について援助を行う際の必要な視点と排泄障害のある人への援助について、やむなく人の手を借りて行わなければならない心理的状态への配慮なども理解する。</p>																																
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食と排泄の意義が理解できる。 2. 食と排泄に関する基礎知識が理解できる。 3. 食生活と排泄習慣との健康の関係が理解できる。 4. 健康障害時における共通技術（食・排泄・プライバシーの保持など）の援助技術が習得できる。 																																
講義内容	授業計画及び学習の内容																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食事の意義 生活の中の「食」、栄養代謝に関するアセスメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食事援助の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂食・嚥下の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食事摂取の介助 援助の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食事介助の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>非経口的栄養摂取援助の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>排泄障害のある対象への援助</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	食事の意義 生活の中の「食」、栄養代謝に関するアセスメント	講義	2	食事援助の基礎知識	講義	3	摂食・嚥下の基礎知識	講義	4	非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法	講義	5	食事摂取の介助 援助の基礎知識	講義	6	食事介助の実際	演習	7	非経口的栄養摂取援助の実際	演習	8	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助	講義	9	排泄障害のある対象への援助	講義
回数	内 容	方法																															
1	食事の意義 生活の中の「食」、栄養代謝に関するアセスメント	講義																															
2	食事援助の基礎知識	講義																															
3	摂食・嚥下の基礎知識	講義																															
4	非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法	講義																															
5	食事摂取の介助 援助の基礎知識	講義																															
6	食事介助の実際	演習																															
7	非経口的栄養摂取援助の実際	演習																															
8	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助	講義																															
9	排泄障害のある対象への援助	講義																															

科 目	日常生活行動援助技術Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)																																	
開 講	1年次 後期	講 義																																		
担当者	専任教員（実務経験あり）																																			
授業のねらい	清潔の援助技術は、臨床の場で最も多く実施される日常生活援助技術である。清潔の保持は単に皮膚がきれいになることや血液循環の促進などの身体的側面だけでなく、爽快感や回復力の向上など心理的側面や円滑な人間関係形成の促進など、社会的側面にも意義がある。清潔保持によってもたらされる多面的な意義を理解しながら援助技術の習得を図る。																																			
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義が理解できる。 2. 清潔・衣生活に関する基礎知識が理解できる。 3. 清潔・衣生活と健康の関係が理解できる。 4. 健康障害時における共通技術（清潔・衣生活・プライバシーの保持など）の援助技術が習得できる。 																																			
講義内容	授業計画及び学習の内容																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>清潔援助の基礎知識 生活の中での「清潔・衣」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>清潔援助の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>清潔援助の実際</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>病床での衣生活の援助の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>病床での衣生活援助の実際① 和式の寝衣交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>病床での衣生活援助の実際② 寝衣交換 点滴静脈注射中の援助</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>清潔援助の実際① 全身清拭 寝衣交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>清潔援助の実際② 全身清拭 寝衣交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>清潔援助の実際③ 全身清拭 寝衣交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>清潔援助の実際④ 足浴</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	清潔援助の基礎知識 生活の中での「清潔・衣」	講義	2	清潔援助の基礎知識	講義	3	清潔援助の実際	講義	4	病床での衣生活の援助の基礎知識	講義	5	病床での衣生活援助の実際① 和式の寝衣交換	演習	6	病床での衣生活援助の実際② 寝衣交換 点滴静脈注射中の援助	演習	7	清潔援助の実際① 全身清拭 寝衣交換	演習	8	清潔援助の実際② 全身清拭 寝衣交換	演習	9	清潔援助の実際③ 全身清拭 寝衣交換	演習	10	清潔援助の実際④ 足浴	演習
回数	内 容	方法																																		
1	清潔援助の基礎知識 生活の中での「清潔・衣」	講義																																		
2	清潔援助の基礎知識	講義																																		
3	清潔援助の実際	講義																																		
4	病床での衣生活の援助の基礎知識	講義																																		
5	病床での衣生活援助の実際① 和式の寝衣交換	演習																																		
6	病床での衣生活援助の実際② 寝衣交換 点滴静脈注射中の援助	演習																																		
7	清潔援助の実際① 全身清拭 寝衣交換	演習																																		
8	清潔援助の実際② 全身清拭 寝衣交換	演習																																		
9	清潔援助の実際③ 全身清拭 寝衣交換	演習																																		
10	清潔援助の実際④ 足浴	演習																																		

	<table border="1"> <tr> <td>11</td> <td>健康障害時の援助 整容</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>清潔援助の実際⑤ 洗髪</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>清潔援助の実際⑥ 洗髪</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>技術テスト</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </table>	11	健康障害時の援助 整容	講義	12	清潔援助の実際⑤ 洗髪	演習	13	清潔援助の実際⑥ 洗髪	演習	14	技術テスト	試験	15	終講試験 まとめ	試験
11	健康障害時の援助 整容	講義														
12	清潔援助の実際⑤ 洗髪	演習														
13	清潔援助の実際⑥ 洗髪	演習														
14	技術テスト	試験														
15	終講試験 まとめ	試験														
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院															
成績評価方法	筆記試験と技術テストとを合わせて評価する。 したがって、筆記試験、技術テストどちらかを理由*なく無断で欠席した場合は試験放棄となる。 *理由とは、成績評価及び卒業規程 第8条に基づく理由（学生便覧参照）															

科 目	診療に伴う技術	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	<p>この科目では、医療事故を未然に防ぐためのリスクの確認、リスクマネジメントの重要性、対象者への説明力など、看護基礎技術の基盤となる安全・安楽を意識した行動を学習する。</p> <p>さらに、創傷管理、検査、与薬・注射法、輸血などの治療・処置・検査時の看護技術を学ぶ。講義・演習を通して診療に伴う対象者の身体的・心理的苦痛を理解する。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察、検査・処置における看護師の役割と、検査・処置の目的、方法、看護について理解できる。 2. 薬物療法・輸血療法に伴う法的責任と管理の方法、また指示された薬剤を安全・適性に与薬する方法が理解できる。 3. 与薬の種類とその方法が理解でき、点滴静脈注射の滴下調整・皮下注射・筋肉内注射の実施ができる。 4. 創傷治癒のメカニズムを理解し創保護の目的・留意点が理解でき包帯法を実施できる。 5. 診療に伴う技術における、看護師としての知識・技術・態度を身に付ける。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	診察、検査・処置における看護師の役割 臨床検査の流れと看護師の役割 創傷管理の基礎知識 創傷処置、包帯法、褥瘡予防に関する基礎知識	講義		
	2	包帯法の実際	演習		
	3	与薬の基礎知識 薬物の作用に影響する因子 投与方法による薬物体内動態、与薬に関する法律	講義		
	4	与薬の方法・種類と看護 ① 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	講義		
	5	与薬の方法・種類と看護 ② 注射の準備・薬剤の確認と準備 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射の基礎知識 中心静脈カテーテルと輸液ライン交換	講義		

	6	注射の実施法① 皮下注射、筋肉内注射の実際	演習
	7	注射の実施法② 静脈内注射・点滴静内注射の実際	演習
	8	輸血管理の知識 輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義
	9	輸血の実際 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	演習
	10	静脈血採血の方法・種類と看護	講義
	11	静脈採血の実際	演習
	12	臨床検査の基礎 ① 一般検査 血液検査	講義
	13	臨床検査の基礎 ② 化学検査、免疫・血清学的検査、内分泌学的検査	講義
	14	臨床検査の基礎 ③ 微生物学的検査、病理学的検査、生体検査	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 別巻 臨床検査 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	基礎看護実践演習	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	対象の健康レベルの変化によって、援助する実践的看護は変化する。事例を基に必要な援助はどのようなものなのか考え演習を含め学ぶ。今までに学んできた、知識・技術を使い、対象に適切な看護を行うことを目指す。演習においては、シミュレーションモデルを用いる方法や、患者役・看護師役を通して、相手の立場に立ち相手を思いやる「心」と「技」を深めていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の観察を行い、必要な情報収集ができる。 2. 得られた情報から、対象の状態をアセスメントし、必要な援助を立案できる。 3. 対象に必要な日常生活援助を実践することができる。 4. 実践・評価修正・再実施を繰り返し、より良い観察・実践・記録・報告ができる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	ガイダンス 患者情報の確認、状態の把握 関連知識の確認	講義
	2	シナリオ① 観察と確認（コミュニケーション） シミュレーション学習の方法の確認 1クール目	講義 演習
	3	シナリオ① 2クール目、3クール目	演習
	4	シナリオ① 評価・まとめ	講義
	5	シナリオ② 情報収集（バイタルサイン測定など） 患者情報の確認 関連知識の確認 1クール目	講義 演習
	6	シナリオ② 2クール目、3クール目	演習
	7	シナリオ② 評価・まとめ	講義
	8	日常生活援助計画を立案	講義
	9	日常生活援助実践	演習

	10	日常生活援助実践	演習
	11	実施の振り返り	講義
	12	日常生活援助計画を立案	講義
	13	日常生活援助実践	演習
	14	日常生活援助実践	演習
	15	実施の振り返り 全体のまとめ	講義
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院 医療情報科学研究所編集：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 看護過程学習要項		
成績評価方法	提出物 授業態度など		

科 目	看護過程の展開 I	単位数 1	時間数 15(8回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	ここでは、看護過程の基盤となる考え方を理解する。また、既習の看護倫理に関する基本的知識と看護の倫理的判断をもとに、看護者としての意思決定ができるように学びを深める。臨地実習に参加するにあたり、職業倫理観の成熟を図るとともに、看護を根拠のあるものとするために、情報収集・分類、情報の解釈・分析、必要な日常生活援助の抽出、援助計画の立案などについて学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的配慮と価値判断について考えを深めることができる。 2. 看護記録を基に情報整理ができ、対象の療養生活について理解できる。 3. 対象に応じた日常生活援助を導き出すことができる。 4. 実施した援助を振り返ることができる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	看護過程展開の基礎 個人情報取り扱い 職業的倫理	講義 演習
	2	事例紹介 記録の取り扱い（看護記録、実習記録） 看護過程学習要項の活用 看護記録から情報収集の視点がわかる	講義 演習
	3	対象の看護に必要な情報整理	講義 演習
	4	情報のアセスメント 日常生活援助実施理由の抽出	講義 演習
	5	日常生活援助の立案 日々の記録	講義 演習
	6	日常生活援助の実施	演習
	7	日々の記録、評価修正	講義 演習
	8	まとめ 記録提出	講義 演習

テキスト	系統看護講座 基礎看護技術 I 医学書院 看護過程学習要項
成績評価方法	提出物 参加態度など

科 目	看護過程の展開Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前・後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	<p>看護過程とは、看護の目的や機能を具体的に実践するための方法論の一つであり、対象者にとって必要な援助を見極めて提供するための手段・方法である。看護過程では、まず情報を収集して、その情報が持つ意味を分析し、その分析から対象者の顕在あるいは潜在する健康上の問題を明確にでき、問題を解決するための看護計画を立案し、実施・評価するという系統的かつ科学的なプロセスが理解できるようにする。そのために、事例を基に問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基本となる考え方を学んでいく。さらに、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階についても、その基本的な考え方と実際を学ぶ。また、看護過程の各段階が、互いに関連して動的に循環しらせん状に進み、評価に基づいて再び次のアセスメントへとつながっていることも理解できるようにする。</p> <p>さらに、この科目では看護過程展開の要素の一つである学習支援を学ぶ。看護実践能力の一部として、人々の健康にかかわる学習を支援する看護技術について理解する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義が理解できる。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析の方法など、看護過程の基盤となる考え方が理解できる。 3. 事例をもとに、情報収集と分析の方法、看護問題の明確化、看護計画立案・実施・評価について基本的な考え方と実際について学ぶ。 4. 看護における学習支援について理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	看護過程とは 看護過程展開の基盤となる考え方 看護過程の各段階（情報の分析）	講義 演習
	2	看護過程の各段階（全体像の把握） 看護過程の各段階（問題の明確化、優先順位）	講義 演習
	3	関連図・看護上の問題・優先順位	講義 演習

	4	看護過程の各段階（看護計画）	講義 演習	
	5	看護計画立案	講義 演習	
	6	看護過程の各段階（日々の記録、評価修正）	講義 演習	
	7	日々の記録・評価修正	講義 演習	
	8	日々の記録・評価修正の補足	講義 演習	
	9	看護過程全体の振り返り	講義 演習	
	10	看護記録の目的と機能 記載・管理における留意点 看護記録の構成	講義	
	11	看護における学習支援	講義	
	12	健康に生きることを支える学習支援 学習支援の基本となる考え方 さまざまな場で行われる学習支援	講義	
	13	健康状態の変化に伴う学習支援 外来・入院時・退院時における学習支援	講義	
	14	学習支援の実際 個人・家族・集団を対象とした学習支援	講義	
	15	終講試験 まとめ	試験	
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 看護過程学習要項		
	成績評価方法	筆記試験 提出物など		

科 目	看護研究の基礎	単位数 1	時間数 30(15回)																																										
開 講	2年次 後期	講 義																																											
担当者	専任教員（実務経験あり）																																												
授業のねらい	<p>看護基礎教育での看護研究は学習の統合が主であり、卒後の応用を念頭に置きながら実践的な知識技術を学ぶことにある。したがって、本科目では実践にとって意義ある研究を行うためにはどうすればいいのか、その学習過程の中で思考力や判断力を育て、自己学習能力の向上を図る。</p> <p>看護研究についての考え方・すすめ方が理解でき、演習を通して研究的態度を養う。</p>																																												
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の概念・意義が理解できる。 2. 研究の種類・方法が理解できる。 3. 看護研究の倫理的配慮が理解できる。 4. 看護研究のプロセスが理解できる。 5. 文献の検索・活用が理解できる。 6. 論文のまとめ方が理解できる。 7. 看護研究を通して自己の看護観を深めることができる。 																																												
講義内容	授業計画及び学習の内容																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス 看護研究論文のイメージ化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護研究の意義と必要性</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護研究における倫理的配慮</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護研究の種類（疫学研究）</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護研究の種類（実験研究）</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護研究の種類（質的研究）</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護研究のプロセス 看護研究計画立案</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文献検索の重要性</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文献検索の実際①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文献検索の実際②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>看護研究成果の発表</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>課題レポート中間報告①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>課題レポート中間報告②</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	ガイダンス 看護研究論文のイメージ化	講義	2	看護研究の意義と必要性	演習	3	看護研究における倫理的配慮	講義	4	看護研究の種類（疫学研究）	演習	5	看護研究の種類（実験研究）	演習	6	看護研究の種類（質的研究）	演習	7	看護研究のプロセス 看護研究計画立案	講義	8	文献検索の重要性	講義	9	文献検索の実際①	演習	10	文献検索の実際②	演習	11	看護研究成果の発表	講義	12	課題レポート中間報告①	演習	13	課題レポート中間報告②	演習
回数	内 容	方法																																											
1	ガイダンス 看護研究論文のイメージ化	講義																																											
2	看護研究の意義と必要性	演習																																											
3	看護研究における倫理的配慮	講義																																											
4	看護研究の種類（疫学研究）	演習																																											
5	看護研究の種類（実験研究）	演習																																											
6	看護研究の種類（質的研究）	演習																																											
7	看護研究のプロセス 看護研究計画立案	講義																																											
8	文献検索の重要性	講義																																											
9	文献検索の実際①	演習																																											
10	文献検索の実際②	演習																																											
11	看護研究成果の発表	講義																																											
12	課題レポート中間報告①	演習																																											
13	課題レポート中間報告②	演習																																											

	14	課題レポート作成	演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	横山美江編：看護研究の進め方・まとめ方 —量的研究のエキスパートをめざして— 医歯薬出版株式会社		
成績評価方法	筆記試験 課題レポート 出席状況 など		

地域・在宅看護論

1. 目的

地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学び、多職種・多機関と連携・協働する中で看護の役割を理解し、地域包括的看護実践を担える基礎的な能力を養う。

2. 目標

- 1) 地域の様々な場で生活している人々の多様性と生活を理解できる。
- 2) 健康と暮らしを支える地域包括ケアシステムと多職種・多機関と連携・協働する看護の役割を理解できる。
- 3) 様々な健康状態にある人々が、暮らしを継続していくための支援と看護が理解できる。
- 4) 地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につける。

3. 科目構成

地域・在宅看護論

地域と暮らし	1 単位	15 時間	1 年次
地域・在宅看護概論	1 単位	30 時間	1 年次
地域包括ケア	1 単位	30 時間	2 年次
地域・在宅看護 I	1 単位	15 時間	2 年次
地域・在宅看護 II	1 単位	30 時間	2 年次
地域・在宅看護過程	1 単位	15 時間	2 年次

科 目	地域と暮らし	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	1年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	地域社会ではあらゆるライフステージ、健康レベルにある個人、家族、集団が、地域で多様な価値観を持ち、様々な場で暮らしている。そのため、フィールドワークを通して、生活の基盤である地域と暮らしを学習する。また、地域で人々が支えあって暮らすことの大切さ、生活の質と生活環境を考える。自分もその一員であることを自覚する。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解できる。 2. 暮らしと地域のかかわりについて理解できる。 3. 地域の生活と健康との関係性を理解できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容			方法
	1	人々の暮らし 暮らすということ 支えあって生きるということ 子ども/AYA 世代/壮年期/老年期/終末期/1人暮らし/夫婦のみ/ひとり親と子ども/多世代 様々な暮らしの場（居宅、学校、施設、通所、病院）			講義
	2	暮らしと健康の関係 自然環境 社会環境（家族、近隣とのつながり、習慣・風習など文化 生活の場（労働の場、学習の場、地域組織、施設など）			講義
	3	地域の特性「暮らしを支えるもの」を知る。〔調べ学習〕 文化的環境、社会環境、自然環境			講義 演習
	4	周辺地域の生活環境の探索〔フィールドワーク〕①			演習
	5	周辺地域の生活環境の探索〔フィールドワーク〕②			演習
	6	周辺地域の生活環境のまとめ 健康維持・増進についての特性 ライフステージ各期の人々の暮らし			演習
	7	周辺地域の生活環境についての発表①			演習
	8	全体のまとめ			演習
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 I 医学書院				
成績評価方法	レポート 授業態度など				

科 目	地域・在宅看護概論	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	地域・在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、地域・在宅看護の目的、基本的理念や関連する概念を学ぶ。さらに地域で暮らす対象者である人々とその家族の特徴について理論やモデルを活用し学習する。また、療養の場の拡大を踏まえ、人々が多様な場で生活する地域・在宅という環境と、対象者の「生きる」を支える看護の基本を学ぶ。また、看護が提供される様々な場と提供方法について理解し、地域・在宅看護の役割と機能を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の社会背景と地域・在宅看護の変遷を理解する。 2. 暮らしの基盤としての地域の理解ができる。 3. 地域・在宅看護の対象者の特性を理解する。 4. 地域・在宅で生活する人々とその家族の支援が理解できる。 5. 暮らしを支える地域・在宅看護が理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	地域・在宅看護の背景 地域・在宅看護の変遷と社会背景 地域・在宅看護のめざすもの	講義
	2	暮らしの基礎としての地域の理解 人々が暮らす地域の多様性	講義
	3	暮らしと地域を理解するための考え方 システム理論	講義
	4	地域・在宅看護の対象者①	講義
	5	地域・在宅看護の対象者②	講義
	6	健康レベルの多様性 住む人の個別性を尊重した看護 在宅生活の継続を支援	講義
	7	在宅看護の対象者としての家族の理解 我が国における家族の現状 我が国における家族とその変遷 家族システム	講義
	8	地域に暮らす対象者の理解と看護 家族のライフステージの理解と看護 対象者の理解からつながりをつくる看護	講義

	9	地域に暮らす対象者の理解と看護②	講義 演習
	10	地域に暮らす対象者の理解と看護③	演習
	11	地域に暮らす対象者の理解と看護④	演習
	12	暮らしを支える地域・在宅看護① 暮らしを支える看護 暮らしの環境を整える看護	講義
	13	暮らしを支える地域・在宅看護② 広がる看護の対象と提供方法 地域におけるライフステージに応じた看護	講義
	14	暮らしを支える地域・在宅看護③ 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 I 医学書院		
成績評価方法	筆記試験 レポート		

科 目	地域包括ケア	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前・後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	地域で暮らす人々とその家族の健康と、その人らしい暮らしを支える地域包括ケアシステムの意義と概念を理解し、生活と医療の両方の視点から、看護師の役割を考える。また、地域の多様な場で、療養する人とその家族が望む生活を維持するための、法・制度・施策を学ぶ。さらに地域・在宅看護における多職種や多機関との連携・協働とマネジメントについて学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける包括的な支援体制を理解できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解できる。 3. 地域で暮らす人々とその家族が健康課題を解決するための資源が理解できる。 4. 地域・在宅看護における多職種・多機関連携と協働が理解できる。 5. 在宅看護におけるマネジメントについて理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	地域包括ケアシステムとは 地域包括ケアシステムの構成要素 地域包括ケアシステムと「自助」「互助」「共助」「公助」 地域包括支援センターの役割・機能	講義
	2	地域包括ケアシステムにおける看護の役割 対象者のニーズに応じた在宅看護の提供	講義
	3	地域・在宅看護の基本となるもの 症状マネジメント 自立・自律支援 リスクマネジメント 権利擁護	講義
	4	地域・在宅看護に関わる法令・制度 介護保険制度の歩み 介護保険制度	講義
	5	医療保険制度	講義
	6	訪問看護制度 訪問看護の利用 訪問看護ステーションに関する規定 訪問看護サービスの提供 訪問看護ステーションの管理・運営	講義

	7	ケアマネジメントと社会資源の活用 ケアマネジメントの概念 ケアマネジメントの要素・機能・過程 社会資源の活用	講義
	8	地域における多職種・多機関連携 行政機関との連携 地域包括センターとの連携 居宅介護支援事業所との連携 介護サービス事業所との連携 医師との連携	講義
	9	地域の社会資源との連携 介護保険と社会資源	講義
	10	地域におけるネットワークづくり 住民との連携と見守りネットワーク 専門職以外の人々との連携	講義
	11	看護が担うケースマネジメントの概要	講義 演習
	12	ケアマネジメントの実際① 事例展開（グループワーク）	演習
	13	ケアマネジメントの実際② 事例展開（グループワーク）	演習
	14	ケアマネジメントの実際③ 事例展開（発表）	演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座	地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護論 II	医学書院 医学書院
成績評価方法	筆記試験 レポート		

科 目	地域・在宅看護 I	単位数	1	時間数	15(8回)																										
開 講	2年次 前期	講 義																													
担当者	非常勤講師																														
授業のねらい	地域・在宅看護における医療事故や感染防止、および災害時の看護師の役割や対応を学ぶ。また、地域・在宅で療養する人々とその家族の人権を尊重するための権利保障を学ぶ。さらに地域・在宅で安寧な最期を支える、エンド・オブ・ライフケアを学ぶ。																														
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における医療事故や感染防止について理解できる。 2. 災害時の訪問看護師の役割や対応が理解できる。 3. 対象者（家族も含む）の権利保障が理解できる。 4. 地域・在宅におけるエンド・オブ・ライフケアが理解できる。 																														
講義内容	授業計画及び学習の内容																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域・在宅看護におけるリスクの理解 環境の整備による安全の確保</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域での暮らしにおける災害対策</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域・在宅看護における安全をまもる看護① 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>地域・在宅看護における安全をまもる看護② 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地域・在宅看護における安全をまもる看護③ 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>エンド・オブ・ライフケア① 看護の視点から考えるエンド・オブ・ライフケアの特徴 地域・在宅で求められるエンド・オブ・ライフケア</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>がん終末期の療養者の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内 容	方法	1	地域・在宅看護におけるリスクの理解 環境の整備による安全の確保	講義	2	地域での暮らしにおける災害対策	講義	3	地域・在宅看護における安全をまもる看護① 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策	講義	4	地域・在宅看護における安全をまもる看護② 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義	5	地域・在宅看護における安全をまもる看護③ 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント	講義	6	エンド・オブ・ライフケア① 看護の視点から考えるエンド・オブ・ライフケアの特徴 地域・在宅で求められるエンド・オブ・ライフケア	講義	7	がん終末期の療養者の看護	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																													
1	地域・在宅看護におけるリスクの理解 環境の整備による安全の確保	講義																													
2	地域での暮らしにおける災害対策	講義																													
3	地域・在宅看護における安全をまもる看護① 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策	講義																													
4	地域・在宅看護における安全をまもる看護② 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義																													
5	地域・在宅看護における安全をまもる看護③ 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント	講義																													
6	エンド・オブ・ライフケア① 看護の視点から考えるエンド・オブ・ライフケアの特徴 地域・在宅で求められるエンド・オブ・ライフケア	講義																													
7	がん終末期の療養者の看護	講義																													
8	終講試験	試験																													
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 I 医学書院 地域・在宅看護論 II 医学書院																														
成績評価方法	筆記試験 レポート																														

科 目	地域・在宅看護Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)																																				
開 講	2年次 前・後期	講 義																																					
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師																																						
授業のねらい	地域で暮らす人々の健康と生活を支える看護、疾患や障害を抱え医療的ケアを必要とする人とその家族が、安全で安心できる生活を支えるための看護を学ぶ。さらに疾患や障害を抱えながら生活する人々とその家族の生活機能をアセスメントし、健康状態や生活上の問題に対する適切な判断能力と援助技術について学ぶ。また、療養者のセルフケアと自立支援に向けた援助方法について学ぶ。																																						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅で生活する人々とその家族の健康を支える援助技術を習得できる。 2. 医療的ケアを安全に実施するための方法と学習支援について習得できる。 3. 地域・在宅で療養する人々とその家族のセルフケアと自立に向けた援助が理解できる。 																																						
講義内容	授業計画及び学習の内容																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>セルフケアを支える対話・コミュニケーション</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>暮らしを支える看護技術① 環境調整 療養環境</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>暮らしを支える看護技術② 活動 休息</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>暮らしを支える看護技術③ 食生活 嚥下 低栄養の予防 排泄</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>暮らしを支える看護技術④ 清潔、整容の援助</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>腹膜透析の管理とケア</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>暮らしを支える看護技術⑥ 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 非侵襲的陽圧換気療法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>医療的ケア児の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脳血管障害の在宅療養者の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>COPDの療養者の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ALSの療養者の看護</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	セルフケアを支える対話・コミュニケーション	講義	2	暮らしを支える看護技術① 環境調整 療養環境	講義	3	暮らしを支える看護技術② 活動 休息	講義 演習	4	暮らしを支える看護技術③ 食生活 嚥下 低栄養の予防 排泄	講義 演習	5	暮らしを支える看護技術④ 清潔、整容の援助	講義	6	腹膜透析の管理とケア	講義	7	暮らしを支える看護技術⑥ 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 非侵襲的陽圧換気療法	講義	8	医療的ケア児の看護	講義	9	脳血管障害の在宅療養者の看護	講義	10	COPDの療養者の看護	講義	11	ALSの療養者の看護	講義
回数	内 容	方法																																					
1	セルフケアを支える対話・コミュニケーション	講義																																					
2	暮らしを支える看護技術① 環境調整 療養環境	講義																																					
3	暮らしを支える看護技術② 活動 休息	講義 演習																																					
4	暮らしを支える看護技術③ 食生活 嚥下 低栄養の予防 排泄	講義 演習																																					
5	暮らしを支える看護技術④ 清潔、整容の援助	講義																																					
6	腹膜透析の管理とケア	講義																																					
7	暮らしを支える看護技術⑥ 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 非侵襲的陽圧換気療法	講義																																					
8	医療的ケア児の看護	講義																																					
9	脳血管障害の在宅療養者の看護	講義																																					
10	COPDの療養者の看護	講義																																					
11	ALSの療養者の看護	講義																																					

	12	パーキンソン病の在宅療養の看護	講義
	13	精神に障がいのある療養者の看護	講義
	14	認知症高齢者の看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院 地域・在宅看護論Ⅱ 医学書院 押川真喜子監修：写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ		
成績評価方法	筆記試験 レポートなど		

科 目	地域・在宅看護過程		単位数 1	時間数 15(8回)
開 講	2年次 後期		講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）			
授業のねらい	地域・在宅看護における看護過程は、療養者が住み慣れた地域で暮らし続けることを支え、対象となる療養者や家族の望む暮らしを支えるために展開する。そして、地域・在宅看護では在宅療養を阻む問題となる状況を予測し、予防するための支援が重要であることを理解する。			
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者・家族のセルフケア能力を導き出し、自立を支援する看護過程が展開できる。 2. 在宅における生活を継続するための、予防的視点を持った看護が理解できる。 			
講義内容	授業計画及び学習の内容			
	回数	内 容	方法	
	1	在宅看護の看護過程の考え方 ICF の概念	講義	
	2	在宅看護の看護過程① 情報整理	講義 演習	
	3	在宅看護の看護過程② アセスメント	講義 演習	
	4	在宅看護の看護過程③ 看護問題及びニーズ	講義 演習	
	5	在宅看護の看護過程④ 看護計画立案	講義 演習	
	6	在宅看護の看護過程⑤ 看護計画に基づいた実施	講義 演習	
	7	在宅看護の看護過程⑥ 評価・修正	講義 演習	
	8	終講試験	試験	
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院 地域・在宅看護論Ⅱ 医学書院 押川真喜子監修：写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ 看護過程学習要項			
成績評価方法	筆記試験 課題レポートなど			

精神看護学

1. 目的

人間の心のしくみや働きを理解し、精神の健康の保持・増進および精神に障がいをもつ対象の看護を学ぶ。

2. 目標

- 1) 精神の健康問題が身体や生活に及ぼす影響を理解する。
- 2) 精神保健・医療・福祉の変遷や精神病理学側面から対象を理解する。
- 3) 精神保健・医療・福祉チームとの連携と、社会資源の活用について理解する。
- 4) 人間関係の構築に必要な技術を習得する。

3. 科目構成

精神看護学

精神看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
精神看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
精神看護方法論	1 単位	30 時間	2 年次
精神看護過程	1 単位	15 時間	2 年次

科 目	精神看護学概論	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	<p>この科目においては、心の健康や発達、心の動きについて理解する。</p> <p>そして、心の健康問題を看護の視点からとらえ、精神に障がいをもつ人の理解に必要な基本知識を習得する。</p> <p>更に、精神保健福祉活動の基礎を学ぶことで、自分自身における精神の健康についても考えられるようにする。</p> <p>また、精神に障がいをもつ人が、地域で自分らしく生活するためには、精神保健・医療・福祉チームとの連携を学ぶことが必要である。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 心の発達と健康について理解する。 心の働きを人間関係や環境との関連から理解する。 精神保健・医療・福祉チームとの連携と看護の役割が理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響 危機介入 心的外傷と回復	講義
	2	心のはたらき 意識と認知機能 感情・行動・知能	講義
	3	心のしくみと人格の発達 人格と気質 自我の構造 自我の発達段階 自我の防衛機制	講義
	4	ライフサイクルと心の健康	講義
	5	環境と心の働き 家族と心の健康 職場と心の健康	講義
	6	環境と心の働き 教育の場と心の健康 地域社会と心の健康	講義
	7	心の健康の維持 国の健康増進対策 心のケアと日本社会	講義
	8	精神保健・医療・福祉の歴史・現在の状況と課題	講義
	9	精神保健福祉法と人権擁護	講義

	10	地域精神保健活動と社会資源の活用	講義
	11	精神の健康と障害	講義
	12	精神の健康問題が及ぼす影響	講義
	13	精神看護学の考え方	講義
	14	精神保健・医療・福祉チームとの連携と看護の役割 リエゾン精神看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座	精神看護の基礎 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉	医学書院 医学書院 医学書院
成績評価方法	筆記試験		

科 目	精神看護対象論	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	近年は、「心の時代」や「不安の時代」と言われ、精神の健康問題は社会の働きや現象と大きく関連しており、人々の重大な関心事となっている。また、心の健康をいかに維持し、増進していくかといったメンタルヘルスの重要性が高まっている。そのため、この科目では、精神疾患の代表的な疾患について、病理学的側面を含めて学び、その疾患の援助方法について理解を深めていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患の診断・治療・検査についての知識を習得する。 2. 精神に障がいをもつ対象への援助方法が理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	精神を病むこととは 精神症状論と状態像 精神障害の診断と分類・治療と検査	講義
	2	統合失調症 病態・症状・診断・治療	講義
	3	気分障害（双極性障害） 病態・症状・診断・治療 抑うつ感情を引き起こす関連因子	講義
	4	神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害 病態・症状・診断・治療	講義
	5	精神作用物質による精神および行動の障害 アルコール依存 薬物依存 その他の依存症 摂食障害 病態・症状・診断・治療	講義
	6	各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調 パーソナリティ障害・てんかん・発達障害など 病態・症状・診断・治療	講義
	7	統合失調症の看護 病期別の看護	講義
	8	気分障害（双極性障害）の看護 病期別の看護	講義
	9	神経症性障害・ストレス・身体表現性障害の看護	講義
10	生理的障害・身体的要因に関連した行動障害の看護	講義	

	11	アルコール・薬物依存の看護	講義
	12	パーソナリティ障害 てんかん・発達障害などの看護	講義
	13	薬物療法時の看護 薬物療法における看護の役割	講義
	14	行動制限時の看護 隔離を受ける患者の看護 拘束を受ける患者の看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座	精神看護の基礎 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉	医学書院 医学書院 医学書院
成績評価方法	筆記試験		

科 目	精神看護方法論	単位数	1	時間数	30(15回)																											
開 講	2年次 前期	講 義																														
担当者	専任教員(実務経験あり)・非常勤講師																															
授業のねらい	<p>精神に障がいをもつ対象を看護するにあたっては、まず、偏見を取り除くことから始めることが重要である。いかに偏見を取り除き、ありのままの姿をその人本人として受け止めながら関わることが求められる。そのためには、当事者や精神科病棟の看護師などから話を聞くことが、負のイメージの払拭にも繋がる。</p> <p>また、精神看護のケアの前提になるのは、人間関係である。そのため、治療的コミュニケーション技術や関係性を深める技術を習得する必要がある。</p>																															
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の構築に必要なコミュニケーション技術の方法を習得する。 2. 精神に障がいをもつ人の援助技術を通して、対象理解ができる。 3. 精神に障がいをもつ人やその家族を支える、地域生活支援が理解できる。 																															
講義内容	授業計画及び学習の内容																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>精神に障がいをもつ対象理解を深める技術 障害のとらえ方 精神障害のきっかけとプロセス 精神障害とともに生きるということ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>援助関係を構築する技術 ペプロウの患者－看護師関係の発達段階</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>精神に障がいをもつ対象に関わる技術 接近の技術 コミュニケーション技術</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>精神に障がいをもつ対象に関わる技術の実際</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自己を知る技術 プロセスレコードなど</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自己を知る技術 ロールプレイングなど</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>治療的コミュニケーション技術</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>様々な精神症状における、コミュニケーション技術</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	精神に障がいをもつ対象理解を深める技術 障害のとらえ方 精神障害のきっかけとプロセス 精神障害とともに生きるということ	講義	2	援助関係を構築する技術 ペプロウの患者－看護師関係の発達段階	講義	3	精神に障がいをもつ対象に関わる技術 接近の技術 コミュニケーション技術	講義 演習	4	精神に障がいをもつ対象に関わる技術の実際	講義 演習	5	自己を知る技術 プロセスレコードなど	講義	6	自己を知る技術 ロールプレイングなど	講義 演習	7	治療的コミュニケーション技術	講義	8	様々な精神症状における、コミュニケーション技術	講義
回数	内 容	方法																														
1	精神に障がいをもつ対象理解を深める技術 障害のとらえ方 精神障害のきっかけとプロセス 精神障害とともに生きるということ	講義																														
2	援助関係を構築する技術 ペプロウの患者－看護師関係の発達段階	講義																														
3	精神に障がいをもつ対象に関わる技術 接近の技術 コミュニケーション技術	講義 演習																														
4	精神に障がいをもつ対象に関わる技術の実際	講義 演習																														
5	自己を知る技術 プロセスレコードなど	講義																														
6	自己を知る技術 ロールプレイングなど	講義 演習																														
7	治療的コミュニケーション技術	講義																														
8	様々な精神症状における、コミュニケーション技術	講義																														

	9	治療的コミュニケーション技術の実際	講義 演習
	10	家族の理解とその支援をする技術 患者家族の心理 家族の負担 家族が危機を乗り越えるための支援	講義
	11	精神障害リハビリテーション 精神科リハビリテーションとリカバリー リカバリーを支えるための援助方法	講義
	12	地域で生活する精神障がいをもつ人の理解 地域移行支援・地域生活支援の基礎知識	講義
	13	地域で生活する精神障がいをもつ人の理解 地域移行支援・地域生活支援の重要性と課題	講義
	14	地域で生活する精神障がいをもつ人の理解 当事者の語り	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座	精神看護の基礎 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉	医学書院 医学書院 医学書院
成績評価方法	筆記試験 課題		

科 目	精神看護過程		単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 後期		講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）					
授業のねらい	<p>臨床で多くみられる精神疾患に対する一般的な看護と、精神に障がいをもつ対象に対して、その人自身の個別性を重視した看護過程の展開方法についての理解を深める。</p> <p>また、対象とその家族の強みを医療従事者が強化し、それを生かして今後どのように生活していきたいのかを、患者と家族とともに考えていく看護を学ぶ。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がい者をもつ対象と疾患に対する基本的な看護が理解できる。 2. オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を活用した看護過程の展開が理解できる。 3. 患者と家族のストレングスに焦点を当てた看護が理解できる。 					
講義内容	授業計画及び学習の内容					
	回数	内 容	方法			
	1	オレム・アンダーウッドの理論 ストレングスモデル	講義			
	2	精神に障がいをもつ対象の看護過程① 情報収集	講義 演習			
	3	精神に障がいをもつ対象の看護過程② アセスメント	講義 演習			
	4	精神に障がいをもつ対象の看護過程③ アセスメント	講義 演習			
	5	精神に障がいをもつ対象の看護過程④ 課題の抽出	講義 演習			
	6	精神に障がいをもつ対象の看護過程⑤ 看護計画立案	講義 演習			
	7	精神に障がいをもつ対象の看護過程⑥ まとめ	講義 演習			
	8	終講試験	試験			
テキスト	系統看護学講座	精神看護の基礎 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉	医学書院 医学書院 医学書院			
成績評価方法	筆記試験 課題					

臨床療養看護学

1. 目的

成人期・老年期にある人々を全人的に理解し、健康の保持・増進、疾病予防への看護とあらゆる健康レベルに応じた看護の基本的知識・技術・態度を修得する。

2. 目標

- 1) 成人期・老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。
- 2) 成人期・老年期にある対象の健康の保持・増進、疾病予防のための保健・医療・福祉の施策を理解する。
- 3) 成人期・老年期の健康障害時における対象の看護を理解する。
- 4) 成人期・老年期の健康問題を抱える対象とその家族の看護を理解する。

3 科目構成

臨床療養看護学

成人・老年看護学概論Ⅰ	1 単位	15 時間	1 年次
成人・老年看護学概論Ⅱ	1 単位	15 時間	1 年次
成人看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
老年看護対象論	1 単位	30 時間	1 年次
成人看護方法論Ⅰ	1 単位	30 時間	2 年次
成人看護方法論Ⅱ	1 単位	15 時間	2 年次
成人看護方法論Ⅲ	1 単位	15 時間	2 年次
成人看護方法論Ⅳ	1 単位	30 時間	2 年次
高齢者看護Ⅰ	1 単位	30 時間	2 年次
高齢者看護Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年次

科 目	成人・老年看護学概論 I	単位数 1	時間数 15(8回)
開 講	1年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	成人期にある人々は、多くの役割を担いながら社会の中で生活している。そのため、健康が社会に及ぼす影響は多岐にわたる。そこでこの科目では、成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康に及ぼす要因や生活・社会に及ぼす影響について学ぶ。 また、成人期にある人の健康問題に対する看護を実践するための基本的な知識を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期における健康の保持・増進の重要性を理解する。 2. 成人期における生活習慣病及び健康障害に対する予防政策について理解する。 3. 成人期の特徴を身体的・精神的・社会的側面より理解する。 4. 成人期における健康問題を理解する。 5. 成人のストレスに関連する健康課題について理解する。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	成人であること 成人各期の特徴（青年期 壮年期 向老期）①	講義
	2	成人各期の特徴（青年期 壮年期 向老期）②	講義
	3	成人の生活を理解する視点と健康観の多様化 成人を取り巻く環境	講義
	4	成人各期の健康問題（青年期 壮年期 向老期）	講義
	5	成人期の健康障害① ・生活習慣 ストレス 職業関連	講義
	6	成人期の健康障害② ヘルスプロモーションと予防の概念	講義
	7	成人を看護する時のアプローチ アンドラゴジーモデル エンパワメントモデル 危機理論	講義
	8	終講試験	試験
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	成人・老年看護学概論Ⅱ	単位数 1	時間数 15(8回)																											
開 講	1年次 後期	講 義																												
担当者	専任教員（実務経験あり）																													
授業のねらい	<p>人生の最期の段階である老年期は人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えるべき段階である。老年看護学の理念に基づき、対象を全人的に捉え、老年期の発達課題と健康問題について、倫理的配慮の視点をもって看護支援のあり方を理解する。加齢変化は、身体の多面的な機能低下を引き起こし、高齢者の社会生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。長い人生経験と知恵、個人の生き方、価値観を尊重し「高齢者」とひとくくりに捉えるのではなく、個別な存在として理解する必要がある。核家族が増加し、高齢者と接する機会が減っていることから、高齢者疑似体験を取り入れ日常生活における不自由さの体験によって対象の心身の理解及び高齢者への日常生活援助・環境調整のあり方を学ぶ。</p>																													
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の発達課題と健康問題について、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と特徴を踏まえて、看護支援のあり方が理解できる。 2. 老年期の対象の全人的理解についてわかり、老年看護学の理念と目標が理解できる。 																													
講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高齢者の理解 高齢者と“老い”の意味 老化と加齢 ライフサイクルと発達課題</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老性変化と日常生活への影響① 高齢者の身体的特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>老性変化と日常生活への影響② 高齢者の身体的特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>老性変化と日常生活への影響③ 高齢者の知的機能、認知機能の特徴 高齢者の心理的特徴 高齢者の社会的特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高齢者疑似体験</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>老年看護のなりたち① 老年看護の理念と役割</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>老年看護のなりたち② 老年看護を支える理論・概念</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	高齢者の理解 高齢者と“老い”の意味 老化と加齢 ライフサイクルと発達課題	講義	2	老性変化と日常生活への影響① 高齢者の身体的特徴	講義	3	老性変化と日常生活への影響② 高齢者の身体的特徴	講義	4	老性変化と日常生活への影響③ 高齢者の知的機能、認知機能の特徴 高齢者の心理的特徴 高齢者の社会的特徴	講義	5	高齢者疑似体験	演習	6	老年看護のなりたち① 老年看護の理念と役割	講義	7	老年看護のなりたち② 老年看護を支える理論・概念	講義	8	終講試験	試験
回数	内 容	方法																												
1	高齢者の理解 高齢者と“老い”の意味 老化と加齢 ライフサイクルと発達課題	講義																												
2	老性変化と日常生活への影響① 高齢者の身体的特徴	講義																												
3	老性変化と日常生活への影響② 高齢者の身体的特徴	講義																												
4	老性変化と日常生活への影響③ 高齢者の知的機能、認知機能の特徴 高齢者の心理的特徴 高齢者の社会的特徴	講義																												
5	高齢者疑似体験	演習																												
6	老年看護のなりたち① 老年看護の理念と役割	講義																												
7	老年看護のなりたち② 老年看護を支える理論・概念	講義																												
8	終講試験	試験																												
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院																													
成績評価方法	筆記試験 レポート																													

科 目	成人看護対象論	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	<p>看護における人々の健康状態については、病気の罹患や病態の安定性・治療などの特徴から、急性期・回復期（リハビリテーション期）・慢性期・終末期と経過別に分類することができる。各時期には、病気に関係なく、その時期に特徴的な身体的・精神的・社会的な状態があり、健康状態から生じる多様なニーズがある。そこでこの科目では、対象への看護を実践するための、健康状態に合わせたニーズの充足に向けた看護を学ぶ。</p> <p>またわが国では、国民の2人に1人が「がん」になる時代と言われ、がん医療は日々進歩している。対象とその家族が長期にわたる治療過程を、安全かつ安心して歩んでいくための、看護援助・健康支援を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本を理解する。 周手術期の各段階（術前・術中・術後）における対象の特徴を理解し、看護を展開する為の基本を理解する。 回復期（リハビリテーション期）にある対象と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本を理解する。 慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本を理解する。 終末期にある対象および、緩和ケアを必要とする対象と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本を理解する。 がん疾患を持つ対象と家族の特徴を理解し、対象や家族が抱える苦痛や生活上の困難、社会参加への支援について理解する。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	急性期における看護① 急性期にある患者と家族の特徴と看護	講義
	2	急性期における看護② 救急看護とクリティカルケアの基本	講義
	3	周手術期における看護① 周手術期の概要と看護	講義
	4	周手術期における看護② 手術・麻酔にともなう生体反応	講義

	5	周手術期における看護③ 手術前・中・後の看護	講義
	6	周手術期における看護④ 術後合併症と予防 1	講義
	7	周手術期における看護⑤ 術後合併症と予防 2	講義
	8	回復期（リハビリテーション期）における看護 定義と看護の役割 機能障害に対する看護 社会参加支援	講義
	9	慢性期における看護① 疾患がある患者と家族の特徴 継続的な支援体制と連携	講義
	10	慢性期における看護② セルフケアと自己管理への看護 社会的支援獲得への看護	講義
	11	がん患者に対する看護① がん患者の治療と看護	講義
	12	がん患者に対する看護② がん患者が抱える苦痛と生活上の困難 社会参加支援	講義
	13	終末期における看護① 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	講義
	14	終末期における看護② エンド・オブ・ライフケア・臨死期の看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 成人看護学 リハビリテーション看護 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 別巻 臨床放射線医学 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	老年看護対象論	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	<p>老年看護においては、1人ひとりの人生を念頭におきながら、健康レベルの多様な水準と場の広がりも多様化し、高齢者が住み慣れたところにいるときも、治療のために入院しているときも、地域の人々やほかの専門職と連携しながら、看護の実践が求められている。地域から施設間までを意識できる視野の広さが「住み慣れたところで最期まで」を実現する地域包括ケアの時代の看護が必要となってくる。現在の超高齢社会の様相を統計資料から学び、高齢者の身体拘束や高齢者虐待に関する倫理的問題から権利擁護を知り、介護保険や成年後見制度など高齢者の自立と権利をまもるための社会制度について学ぶ。また、療養生活の場として介護老人福祉施設の見学を取り入れ、様々な健康状態にある高齢者に関心を寄せ、その生活について学ぶ機会し、看護職の役割を認識する機会とする。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会における高齢者の健康生活が理解できる。 2. 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向と現状が理解できる。 3. 超高齢社会における権利擁護について知ることができる。 4. 高齢者の療養生活の場を知り、高齢者の健康と生活を守る使命を認識できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	高齢者の生活 統計的輪郭 高齢者の生活を支える視点	講義		
	2	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度① 高齢者の健康づくりに関する制度・法律	講義		
	3	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度② 介護保険制度	講義		
	4	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度③ 介護保険制度	講義		
	5	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度④ 高齢者の生活を支える地域包括ケアシステム	講義		
	6	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度⑤ 後期高齢者医療制度	講義		

	7	高齢者の権利擁護① 高齢者の権利擁護と意思決定支援 高齢者に対する虐待	講義
	8	高齢者の権利擁護② 身体拘束 高齢者の権利を守る制度	講義
	9	高齢者の健康生活への支援 高齢者のヘルスプロモーション	講義
	10	療養・生活の場を支える看護 退院支援 多職種連携	講義
	11	療養・生活の場の特徴と看護 介護保険施設における看護	講義
	12	高齢者を支える家族介護者への看護	講義
	13	施設見学	演習
	14	施設見学	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
成績評価方法	筆記試験 レポート		

科 目	成人看護方法論 I	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	人間が生きて活動するための重要な役割を担っているのが、呼吸器・循環器である。また人間には異物から人体を守る防御機能が備わっており、自己と非自己を識別して異物から人体を守っている。そこでこの科目では、人間が生きて活動するための機能が障害されたときの身体的・心理的・社会的特徴について理解し、感染予防や生活の質の維持と生活リズムの調整、家族への援助といった看護の目的と役割を学んでいく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器障害による対象の身体的変化および、心理・社会的影響をふまえた看護について理解する。 2. 循環器障害による対象の身体的変化および、心理・社会的影響をふまえた看護について理解する。 3. 身体防御機能障害による対象の身体的変化および、心理・社会的影響をふまえた看護について理解する。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	呼吸機能障害のある対象の看護① ＜肺炎 肺結核 気胸＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	2	呼吸機能障害のある対象の看護② ＜慢性閉塞性肺疾患 気管支喘息＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	3	呼吸機能障害のある対象の看護③ ＜肺がん＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	4	循環機能障害のある対象の看護① ＜虚血性心疾患 不整脈＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	5	循環機能障害のある対象の看護② ＜弁膜症 動脈系疾患 静脈系疾患＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義

	6	循環機能障害のある対象の看護③ ＜心不全 心筋炎 心膜炎＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	7	循環機能障害のある対象の看護④ PCI・心臓リハビリテーション	講義
	8	身体防御機能に障害のある対象の看護① 感染症概論	講義
	9	身体防御機能に障害のある対象の看護② 感染症経路別予防策	講義
	10	身体防御機能に障害のある対象の看護③ ＜アレルギー性疾患＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	11	身体防御機能に障害のある対象の看護④ ＜自己免疫疾患＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	12	身体防御機能に障害のある対象の看護⑤ ＜ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	13	身体防御機能に障害のある対象の看護⑥ ＜造血器腫瘍 1＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	14	身体防御機能に障害のある対象の看護⑦ ＜造血器腫瘍 2＞ *骨髄移植を含む ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 医学書院 成人看護学 循環器 医学書院 成人看護学 血液・造血器 医学書院 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 別巻 臨床外科各論 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 別巻 臨床検査 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	成人看護方法論Ⅱ	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	人間の生命活動において消化器、腎・泌尿器、栄養代謝は、活動域となる栄養素を取り入れ、これを維持すると同時に、不要な老廃物を排除し、身体の向上性を維持するうえで重要な役割を担っている。これらの機能が障害されると、生命維持が困難になるだけでなく、制限を強いられた生活が長期間にわたり、疾病のコントロール、セルフマネジメントを日常生活の中でしていかなければならない。そこでこの科目では、疾患と治療や看護を結び付け、疾病のコントロール、セルフマネジメント力を獲得できる関りを学んでいく。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器機能障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 2. 栄養代謝機能障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 3. 腎・泌尿器障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	消化・吸収機能障害のある対象の看護① ＜上部消化管機能障害(食道癌 胃癌) 逆流性食道炎＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義		
	2	消化・吸収機能障害のある対象の看護② ＜下部消化管機能障害(大腸癌 結腸癌)＞*人工肛門造設含 ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義		
	3	消化・吸収機能障害のある対象の看護③ ＜炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎 クロウン病)十二指腸潰瘍＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義		
	4	栄養代謝機能障害のある対象の看護① ＜ウイルス性肝炎 肝硬変 肝癌＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義		
	5	栄養代謝機能障害のある対象の看護② ＜膵炎 膵癌 高尿酸血症＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義		

	6	排尿機能障害のある対象の看護① <尿失禁 腎・尿路結石> *尿検査・尿流動態検査含 ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	7	排尿機能障害のある対象の看護② <腫瘍(膀胱癌 前立腺癌) 前立腺肥大症> ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	8	終講試験	試験
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 消化器 医学書院 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院 別巻 臨床看護総論 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 別巻 臨床放射線医学 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	成人看護方法論Ⅲ	単位数	1	時間数	15(8回)																		
開 講	2年次 後期	講 義																					
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師																						
授業のねらい	人間の生命活動において消化器、腎・泌尿器、栄養代謝は、活動域となる栄養素を取り入れ、これを維持すると同時に、不要な老廃物を排除し、身体の向上性を維持するうえで重要な役割を担っている。ライフスタイルが多様化した現代では、生活習慣がこれらの機能に影響を与え、疾病の発症となり慢性的な経過をたどる。また、女性の社会背景が変化する中で、女性生殖器疾患の発症にもライフスタイルの変化が関連しているといわれている。患者の社会的背景を踏まえた、日常生活の中でのセルフマネジメント力を獲得できる関りを学んでいく。																						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部環境調節機能障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 2. 内分泌機能障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 3. 性・生殖、乳腺機能障害にある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 																						
講義内容	授業計画及び学習の内容																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>内部環境調節機能障害のある対象の看護① ＜腎不全 腎癌 腎移植＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>内部環境調節機能障害のある対象の看護② ＜透析療法＞</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>内分泌機能障害のある対象の看護① ＜糖尿病(1型 2型)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>内分泌機能障害のある対象の看護② ＜血糖測定＞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>内分泌機能障害のある対象の看護③ ＜甲状腺疾患・腫瘍＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内 容	方法	1	内部環境調節機能障害のある対象の看護① ＜腎不全 腎癌 腎移植＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義	2	内部環境調節機能障害のある対象の看護② ＜透析療法＞	講義	3	内分泌機能障害のある対象の看護① ＜糖尿病(1型 2型)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義	4	内分泌機能障害のある対象の看護② ＜血糖測定＞	演習	5	内分泌機能障害のある対象の看護③ ＜甲状腺疾患・腫瘍＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
回数	内 容	方法																					
1	内部環境調節機能障害のある対象の看護① ＜腎不全 腎癌 腎移植＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義																					
2	内部環境調節機能障害のある対象の看護② ＜透析療法＞	講義																					
3	内分泌機能障害のある対象の看護① ＜糖尿病(1型 2型)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義																					
4	内分泌機能障害のある対象の看護② ＜血糖測定＞	演習																					
5	内分泌機能障害のある対象の看護③ ＜甲状腺疾患・腫瘍＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義																					

	<table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護① ＜乳癌＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護② ＜女性生殖器疾患(子宮体癌・頸癌 卵巣癌)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td>試験</td> </tr> </table>	6	性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護① ＜乳癌＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義	7	性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護② ＜女性生殖器疾患(子宮体癌・頸癌 卵巣癌)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義	8	終講試験	試験
6	性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護① ＜乳癌＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義								
7	性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護② ＜女性生殖器疾患(子宮体癌・頸癌 卵巣癌)＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義								
8	終講試験	試験								
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 成人看護学 女性生殖器 医学書院 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 別巻 臨床放射線医学 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 医学書院									
成績評価方法	筆記試験									

科 目	成人看護方法論Ⅳ	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	人間の生命活動において運動器、中枢神経、感覚器系は生命維持にとって重要な働きを担っていると同時に、人間らしく日常生活を送る上でも重要な機能といえる。これらの機能が障害されると、生命の危機に直結する深刻な状況に直面し、危機を脱しても合併症や二次障害が残ることおあり、障害を抱えながら生活を強いられることとなる。このような状況においても、対象者が持っている機能を最大限生かし生活をしていかなければならない。そこでこの科目では、障害を持って生活する人に焦点をあて、機能障害の出現や悪化を予防するための看護とリハビリテーションの技術を学び、合わせて、障害の程度を正確に把握するための、フィジカルアセスメント技術を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能に障害のある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 2. 中枢神経系に障害のある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 3. 感覚機能に障害のある対象の身体的変化および、心理・社会的影響を踏まえた看護について理解する。 4. 関連するフィジカルアセスメント技術を習得し、臨床判断能力向上につなげることができる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	運動機能障害のある対象の看護① ＜骨折 四肢切断＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	2	運動機能障害のある対象の看護② ＜変形性膝関節症 椎間板ヘルニア＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	3	運動機能障害のある対象の看護③ ＜関節リウマチ＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	4	運動器系フィジカルアセスメントの実際	講義 演習
	5	脳・神経機能障害のある対象の看護① ＜脊髄損傷 1＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義

	6	脳・神経機能障害のある対象の看護② ＜脊髄損傷 2＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	7	脳・神経機能障害のある対象の看護③ ＜脳血管障害 1＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	8	脳・神経機能障害のある対象の看護④ ＜脳血管障害 2＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	9	脳・神経機能障害のある対象の看護⑤ ＜脳血管障害 3＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	10	脳・神経機能障害のある対象の看護⑥ ＜頭部外傷 腫瘍＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	11	脳・神経機能障害のある対象の看護⑦ ＜筋委縮性側索硬化症(ALS) 脳炎 髄膜炎＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	12	感覚機能障害のある対象の看護① ＜視覚障害 聴覚障害＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	13	感覚機能障害のある対象の看護② ＜嗅覚障害 味覚障害 触覚障害＞ ・原因と障害の程度のアセスメント ・検査、処置、治療を受ける対象の看護 ・病期や機能障害に応じた看護	講義
	14	中枢神経・感覚機能系フィジカルアセスメントの実際	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 医学書院 成人看護学 脳・神経 別巻 臨床看護総論 成人看護学 運動器 別巻 臨床外科看護各論 成人看護学 皮膚 別巻 臨床放射線医学 人体の構造と機能 [3] 栄養学 別巻 リハビリテーション看護 成人看護学 耳鼻咽喉 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	高齢者看護 I	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	<p>複数の疾患をあわせもつことが多い高齢者は、もとなる疾患とそれによって新たに起こった疾患や障害をつなげて考える必要がある。また、高齢者を疾患や障害を有している生活者として幅広く捉えること、たとえ疾患や障害をもちながらも高齢者がいきいきと暮らすことができるように、その人のもてる力を大切に支援する方法を学ぶ必要がある。加齢に伴う諸機能の低下や疾患により、高齢者の生活障害はさまざまである。高齢者の生活機能に着目した適切な看護援助を考え高齢者が望む生活に向かって暮らせるよう理解する必要がある。老年において特徴的な症状に対する援助技術を学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化と健康障害を併せ持つ諸問題がわかる。 2. 高齢者の生活障害に応じた援助の方法を理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	高齢者の特徴とアセスメント 高齢者の生活機能のアセスメント 高齢者のフィジカルアセスメント	講義		
	2	高齢者に特徴的な症状と看護① 高齢者の脱水と看護 高齢者の発熱と看護	講義		
	3	高齢者に特徴的な症状と看護② 高齢者の痛みと看護 高齢者の浮腫と看護	講義		
	4	高齢者に特徴的な症状と看護③ 高齢者の皮膚搔痒感と看護	講義		
	5	高齢者の生活障害に応じた援助① 基本動作、転倒・転落予防の援助	講義		
	6	高齢者の生活障害に応じた援助② 基本動作、転倒・転落予防の援助	講義		
	7	高齢者の生活障害に応じた援助① 排泄の援助	講義		

	8	高齢者の生活障害に応じた援助② 清潔・整容の援助	講義
	9	高齢者の生活障害に応じた援助③ 清潔・整容の援助	演習
	10	高齢者の生活障害に応じた援助④ 食事の援助	講義
	11	高齢者の生活障害に応じた援助⑤ 食事の援助	講義
	12	高齢者の生活障害に応じた援助⑥ 生活リズム	講義
	13	高齢者の生活障害に応じた援助⑦ 生活リズム	講義
	14	高齢者の生活障害に応じた援助⑧ コミュニケーション	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論 医学書院 大塚真理子編著：カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版		
成績評価方法	筆記試験 レポート		

科 目	高齢者看護Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	<p>老年看護の対象者は、慢性疾患や健康障害を抱えながら暮らす高齢者である。疾患や障害を有している生活者の生活行動の視点を捉え、対象者が望む生活や状態像を見据えた思考を学んでいくことが必要である。</p> <p>認知症高齢者について、既習の知識を想起させ、疾患や障害が高齢者の生活にどのように影響を及ぼしているのか、もてる力を引き出すことができるよう支援する方法について学ぶ。また、老年期を生きる人々には、必ず生を終える日が訪れる。人生の最終段階を見据えた高齢者の捉え方と意思決定支援、エンドオブライフケアについても学ぶ。高齢者の生活を営むために不可欠な生活行動から高齢者のもてる力に着眼した生活行動の視点からの考え方を学ぶ。また、病態からみた老年看護過程において事例を取り入れながら、生活者として的高齢者を幅広くとらえる学習ができるようにする。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の療養生活への看護が理解できる。 2. 高齢者のもてる力に着眼した生活行動の視点から考え方が理解できる。 3. 病態からみた看護過程が理解できる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	高齢者の療養生活の支援① 検査を受ける高齢者の看護	講義
	2	高齢者の療養生活の支援② 薬物療法を受ける高齢者への看護 手術療法を受ける高齢者への看護	講義
	3	高齢者の療養生活の支援③ 高齢者のリハビリテーション看護 老年症候群の看護	講義
	4	パーキンソン病にある高齢者の看護	講義
	5	認知機能障害のある高齢者の看護① うつ せん妄	講義
	6	認知機能障害のある高齢者の看護② 認知症	講義
	7	高齢者の症候のアセスメントと看護 褥瘡・スキンケア	講義

	8	高齢者の尊厳を支える看取り① エンド オブ ライフケア	講義
	9	高齢者の尊厳を支える看取り② 意思決定への支援 終末期の家族支援	講義
	10	老年看護過程① 看護過程の考え方	講義
	11	老年看護過程② 病態からみた看護過程の展開 生活行動モデルからみた展開	講義
	12	老年看護過程① 事例展開の実際	講義 演習
	13	老年看護過程② 事例展開の実際	講義 演習
	14	老年看護過程③ 事例展開の実際	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
成績評価方法	筆記試験 レポート		

成育看護学

目的

成育期にある、胎児から妊産褥婦と新生児およびその家族、子どもとその家族についてライフサイクルの視点から、それぞれの対象に適した看護を総合的かつ継続的に学ぶ。

母性看護学

1. 目的

ヒトのもつ種族保存の働き（生殖）と、その意義、女性のライフサイクルにおける特徴と母性の対象を理解し、看護を実践するための母性看護の基礎的知識・技術・態度を修得する。

2. 目標

- 1) 性と生殖は人間存在の根源的営為であることを認識し、女性の持つ母性機能を理解できる。
- 2) 女性のライフサイクルの特性における健康問題と、生涯を通じた健康保持・増進への看護の基本を理解できる。
- 3) 周産期の生理を理解し、ウェルネスの視点をもって母子と家族の健康および問題を解決するための援助を実践できる。
- 4) 母性（父性）としての自己概念を形成できる。

小児看護学

1. 目的

小児の身体的・精神的・社会的特徴の理解を基盤とし、あらゆる健康レベルにおける子どもとその家族に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を修得する。

2. 目標

- 1) 小児看護の対象である子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもと家族を取り巻く社会について理解する。
- 2) 子どもの健康と権利を守るための諸制度について学ぶ。
- 3) 健全な人間形成と子どもが健康な生活を送るための保育・養育について学ぶ。
- 4) 小児に特有な疾病および障害について理解し、健康を障害された子どもとその家族への看護について学ぶ。
- 5) 小児看護学の学習を通して、子ども観を発展できる。⑩

3. 科目構成

共通科目

	母性・小児看護学概論	1 単位	30 時間	1 年次
	母性・小児統合援助論	1 単位	15 時間	2 年次
母性看護学	母性看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
	周産期看護 I	1 単位	30 時間	2 年次
	周産期看護 II	1 単位	30 時間	2 年次
小児看護学	小児看護対象論	1 単位	30 時間	2 年次
	小児看護方法論 I	1 単位	30 時間	2 年次
	小児看護方法論 II	1 単位	30 時間	2 年次

科 目	母性・小児看護学概論	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	1年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	<p>母性看護では、妊娠・分娩・出産を通して、新しい役割、他者への愛着、母子相互作用など、人格形成に関わるセクシュアリティやジェンダーなどの学習を通し、人の本質や価値観に縛られず様々な性に関する正しい知識や、人権を尊重した支援の看護のあり方を学ぶ。さらに対象を取り巻く現代社会の変化や、切れ目のない保健施策としての妊娠・出産包括支援事業や子どもの健やかな成長を守り育む地域作りが看護の基盤としている事を理解できるようにする。母子を取り巻く環境の変化の特徴や、家族に起こる社会問題および課題、制度や政策を通して、看護が提供される職種や提供システムについて学び、多面的な母性看護の課題についての思考を深める。</p> <p>小児看護では、小児看護の変遷や役割を知り、小児の成長・発達の理解を深めていく。また社会を担う子どもの命を大切に守り、健やかな成長・発達を保障できるように、子どもの権利や制度を学び子どもと家族を総合的に理解していく。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念および意義を理解できる。 2. 母子を取り巻く環境とその諸問題を理解できる。 3. 母子に関する法律・施策・動向について理解できる。 4. 母子看護の役割や機能について理解できる。 5. 子どもの成長・発達の特徴や評価方法について理解できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	母性の概念、定義 母性とは 母性の身体的、心理的、社会的特性 母性看護における母性	講義		
	2	母性の発達・成熟・継承 母子関係と愛着 母性・父性、親性の発達 女性性の発達 ジェンダー、性同一性、女性性	講義		
	3	母性看護の対象を取り巻く環境	講義		
	4	母性看護の変遷と現状 母子保健統計の動向	講義		
	5	母性看護における組織と法律	講義		

	6	母子保健に関連する施策	講義	
	7	母性看護の場と職種	講義	
	8	小児看護の特徴と理念 小児看護の目指すところ 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷、目標と課題	講義	
	9	子どもの成長・発達（1） 成長発達とは、成長発達の進み方、 成長発達に影響する因子 形態的成長と評価方法	講義	
	10	子どもの成長・発達（2） 機能的発達 呼吸・循環・体温、消化、水分と電解質、腎機能、神経系、 免疫	講義	
	11	子どもの成長・発達（3） 精神・運動機能の発達 粗大運動、微細運動、感覚機能、言語発達、認知機能・知 的機能、情緒・社会関係	講義 演習	
	12	子どもと家族を取り巻く社会（1） 児童福祉、母子保健、子育て支援対策	講義	
	13	子どもと家族を取り巻く社会（2） 予防接種、学校保健、特別支援教育	講義 演習	
	14	小児看護における子どもの権利と尊厳	講義	
	15	終講試験 まとめ	試験	
	テキスト	系統看護学講座 国民衛生の動向	母性看護学概論 小児看護学概論／小児臨床看護総論 厚生労働統計協会	医学書院 医学書院
	成績評価方法	筆記試験 レポート課題 提出物		

科 目	母性・小児統合援助論	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	2年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）				
授業のねらい	母性看護学・小児看護学において共通する演習を中心に、切れ目のない看護を統合できるように知識と技術を組み合わせて学習を行う。母性の分野では、妊娠～産後の妊産婦の状態を確認する技術や新生児の健康状態の観察、新生児の育児に必要な授乳や沐浴などの技術を学ぶ。小児の分野では、小児特有の看護技術を中心に学ぶ。特に発達段階に合わせたコミュニケーション能力の向上を図り、小児および家族への具体的な援助方法を学ぶため、事例におけるプレパレーション演習を組み込みながら、母性・小児看護学における看護実践能力の向上を図る。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子看護に必要な援助技術を理解し実践できる。 2. 小児看護に特有な看護技術を理解し実践できる。 3. プレパレーションの演習を通して、発達段階に応じたコミュニケーション方法や小児や家族の気持ちを汲み取り、子どもの持っている力を引き出す援助の方法がわかる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	妊婦の看護に必要な看護技術 妊婦の身体計測（腹囲・子宮底計測・レオポルド触診法） 胎児心音聴取用法 分娩監視装置の装着方法・トラウベ聴診器 妊婦体験	演習		
	2	生活を援助する看護技術 抱っこ、おむつ交換、更衣、調乳・授乳、沐浴	演習		
	3	産婦の看護に必要な看護技術 呼吸法 産痛緩和法とマッサージ	演習		
	4	褥婦の看護に必要な看護技術 子宮復古の観察 子宮底の輪状マッサージ 乳房の観察 乳房マッサージ 直接授乳の援助（ラッチオンとポジショニング）	演習		
	5	新生児・小児のヘルスアセスメント技術 新生児の全身観察とフィジカルアセスメント 小児のバイタルサイン測定 身体計測	演習		

	6	意思決定に必要な心理的支援技術（1） 事例におけるアセスメントおよびプレパレーション計画 ケア・モデルの立案 採血、吸入、与薬、注射、酸素療法、抑制法、固定法	演習
	7	意思決定に必要な心理的支援技術（2） 事例におけるプレパレーションの発表	演習
	8	終講試験	試験
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学各論 小児看護学概論/小児臨床看護総論 平澤美恵子他監修： 写真でわかる母性看護技術アドバンス 佐々木祥子他編： 写真でわかる小児看護技術アドバンス	医学書院 医学書院 医学書院 インターメディカ インターメディカ	
成績評価方法	筆記試験 課題レポートなど		

科 目	母性看護対象論	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	<p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から、身体的、心理・社会的、文化的側面に着目し、性機能の発達から成熟・衰退に至るまでの特徴および、思春期から老年期に至る女性のリプロダクティブヘルスケアを学ぶ。</p> <p>母性のヘルスプロモーションの現状や健康の保持増進の観点から、生涯を通じた健康と健康課題や社会的問題、母性看護を取り巻く課題の理解を深める。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルス/ライツの概念が母性看護の基盤である事を理解できる。 2. 女性のライフサイクルにおける性周期の特徴と健康問題と看護を理解できる。 3. 女性の生涯にわたる健康とヘルスプロモーションが理解できる 4. リプロダクティブヘルスケアに関する主要な健康問題と看護を理解できる。 5. 母性看護における生命倫理の問題について理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	母性の概念、定義 リプロダクティブヘルス/ライツとは	講義		
	2	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 生殖器の形態・機能 性周期と女性のライフサイクル	講義		
	3	女性のライフスタイルと家族 家族の発達段階と家族看護	講義		
	4	人間の性と生殖、セクシュアリティ セクシュアリティとは セクシュアリティの発達と課題	講義		
	5	女性のライフステージ各期における看護 ライフステージ各期の健康問題と看護 思春期の健康と看護	講義		
	6	成熟期の健康と看護	講義		
	7	更年期の健康と看護	講義		

	8	老年期の健康と看護	講義
	9	リプロダクティブヘルスケア（1） 家族計画、受胎調節	講義
	10	リプロダクティブヘルスケア（2） 性感染症とその予防 性感染症の医学的な背景と予防 HIVに感染した女性に対する看護	講義
	11	リプロダクティブヘルスケア（3） 人工妊娠中絶と看護	講義
	12	リプロダクティブヘルスケア（4） 喫煙や飲酒女性の健康と家族 性暴力を受けた女性に関する看護	講義
	13	母性看護における倫理 生命倫理的な問題 グループワーク	講義
	14	母性における諸問題と看護 DVを受けた女性に対する看護 不妊の女性に対する看護 在日外国人の母子保健	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	小児看護対象論	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	小児の代表的な疾患の病態生理・診断・治療に対し学びを深めることにより、小児看護学において必要な看護の理解に繋げていかれるようにしていく。また様々な状況下にある子どもと家族についての現状を学び、小児や家族に必要な看護について学習する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に多い疾患の病態および治療について理解する。 2. 様々な状況下にある子どもと家族の看護について理解する。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	循環器疾患 先天性心疾患、川崎病	講義
	2	免疫・リウマチ疾患 若年性特発性関節炎 アレルギー疾患 気管支喘息、食物アレルギー	講義
	3	血液・造血性疾患：血友病 悪性新生物 白血病、脳腫瘍、神経芽腫、ウイルス腫瘍	講義
	4	小児感染症 ウイルス感染症、細菌感染症 呼吸器感染症 クループ症候群、細気管支炎、肺炎	講義
	5	神経疾患 二分脊椎、水頭症、てんかん、脳性麻痺、レックリングハウゼン病	講義
	6	腎・泌尿器疾患 泌尿器生殖器の奇形、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎	講義
	7	出生前疾患 染色体異常、胎芽病、胎児病 内分泌疾患 成長ホルモン分泌不全症、先天性甲状腺機能低下症	講義

	8	先天性代謝異常 新生児マススクリーニング 代謝性疾患 小児糖尿病	講義
	9	小児外科疾患 消化器疾患 唇裂・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、臍ヘルニア 鎖肛、腸重積症・胆道閉鎖症、ヒルシュスプリング病	講義
	10	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護（1） 入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護	講義
	11	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護（2） 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護	講義
	12	障害のある子どもと家族の看護（1） 障害のとらえ方、インクルーシブ教育 心身障害児および医療的ケア児におけるに必要な看護	講義
	13	障害のある子どもと家族の看護（2） 発達障害にある子どもの理解と必要な家族への支援と看護	講義
	14	子どもの虐待と看護 子どもの虐待への対策の現状と特徴 虐待のリスク要因・早期発見および必要な支援	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 小児看護学概論／小児臨床総論 医学書院		
成績評価方法	筆記試験 課題レポート		

科 目	周産期看護 I	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 前期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師		
授業のねらい	本講義では、妊娠・産婦・褥婦・新生児の周産期における生理的変化を理解し、これらの変化は妊娠に伴う生理的なものであることを学習する。また各期の生理的変化から逸脱した状況にも目を向け、健康的に周産期を過ごす日常生活のセルフケア能力を高める看護を学び理解に繋げる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器の形態と機能・性周期について理解できる。 2. 不妊治療と看護について理解できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期の生理と経過および異常が理解できる。 4. 妊娠期の看護について理解できる。 5. 新生児期の生理的変化と異常について理解できる 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	女性生殖器の特徴 性機能 性周期 性分化 遺伝 不妊治療	講義
	2	正常妊娠 妊娠成立の経過 妊娠の生理 胎児の発育と生理	講義
	3	母体の生理的変化	講義
	4	異常妊娠（1） 妊娠性高血圧症候群 多胎妊娠 胎児・付属物の異常	講義
	5	異常妊娠（2） 子宮外妊娠 流・早産 過期妊娠 前置胎盤 常位胎盤早期剥離	講義
	6	正常分娩 分娩の生理と経過 分娩機序 胎児に及ぼす影響 健康状態	講義
	7	異常分娩	講義
	8	胎児仮死 帝王切開術	講義
	9	産褥 産褥の経過 異常産褥	講義

	10	新生児 新生児の生理 新生児の異常	講義
	11	妊娠期の看護（1） 妊娠期の身体的、心理、社会的特性	講義
	12	妊娠期の看護（2） 妊婦と胎児のアセスメント	講義
	13	妊娠期の看護（3） 妊婦と家族の看護 妊婦が受ける母子保健サービス 親になるための準備教育	講義
	14	妊娠期の看護（4） 妊婦の保健相談の実際 妊娠中のマイナートラブル 妊娠の異常と看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 平澤美恵子他監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	周産期看護Ⅱ	単位数 1	時間数 30(15回)
開 講	2年次 後期	講 義	
担当者	専任教員（実務経験あり）		
授業のねらい	<p>周産期看護Ⅰでの学びを踏まえ、生命の神秘や、分娩が素晴らしいことであると学習を通して気づけるように学ぶ。周産期にある対象の生理的現象が順調に経過し、対象のセルフケア能力を高める看護を学習する。</p> <p>また、ウェルネスの視点に立ち、健康的に周産期を過ごすためのセルフケアとより良い母子・家族関係を築くための看護を、事例展開を通して学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の看護について理解できる。 2. 産褥期の看護について理解できる。 3. 新生児期の生理的変化と看護について理解できる。 4. 母性看護における看護過程の展開ができる。 		
講義内容	授業計画及び学習の内容		
	回数	内 容	方法
	1	分娩期の看護（1） 分娩の定義、正常分娩の経過と分娩の機序	講義
	2	分娩期の看護（2） 分娩が母体および胎児に及ぼす影響	講義
	3	分娩第1期の看護 産婦・胎児のアセスメント 産婦の身体的・心理的・社会的変化 産婦と家族の看護	講義
	4	分娩第2期の看護 産婦・胎児のアセスメント 産婦の身体的・心理的・社会的変化 産婦と家族の看護	講義
	5	分娩第3・4期の看護 産婦・胎児のアセスメント 産婦の身体的・心理的・社会的変化 産婦と家族の看護 分娩の異常と看護	講義
	6	産褥期の看護 産褥の定義 産褥の経過 生理的変化 産褥期の身体的・心理的・社会的変化 児との愛着形成	講義

	7	褥婦のアセスメント 褥婦と家族の看護 産褥期の不快症状および看護 産褥の異常と看護	講義
	8	新生児の看護（1） 新生児の生理、新生児のアセスメント	講義
	9	新生児の看護（2） 出生直後の看護	講義
	10	新生児の看護（3） 出生後から退院までの看護 新生児の異常と看護	講義
	11	看護過程の展開（1） ウェルネスの概念 ウェルネス志向の考え方 ウェルネス志向型と問題志向型	講義 演習
	12	看護過程の展開（2） 産褥期・新生児期の事例紹介	講義 演習
	13	看護過程の展開（3） 産褥期・新生児のアセスメント 看護計画～評価	講義 演習
	14	看護過程の展開（4） 産褥期・新生児のアセスメントと看護計画 看護計画～評価	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 平澤美恵子他監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		
成績評価方法	筆記試験		

科 目	小児看護方法論 I	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 前・後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	母性・小児看護学概論で学んだ成長発達の基礎知識を踏まえ、健やかな成長・発達を支えるための保育と養育について学び、発達に適した生活ができるための援助方法を理解する。また小児の代表的な疾病において発達段階・健康状態に応じた生活の援助を学ぶと共に、様々な状況下にある子どもと家族に必要な看護について学習する。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な生活習慣の発達と発達段階に即した日常生活の世話について理解する。 2. 小児の遊びの意義を理解し、発達段階に適した遊びについて理解する。 3. 小児の事故の特徴と安全を守る方法を理解する。 4. 意思決定のためのプレパレーションの意義や目的を理解する。 5. 健康障害が子どもの成長・発達や子どもと家族の生活に及ぼす影響について説明でき、子どもと家族に必要な援助について理解する。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	成長発達に応じた生活習慣の援助（1） 乳児の栄養の特徴と咀嚼機能の発達	講義		
	2	成長発達に応じた生活習慣の援助（2） 幼児の栄養の特徴と食行動の発達	講義		
	3	成長発達に応じた生活習慣の援助（3） 乳幼児の排泄・清潔	講義		
	4	成長発達に応じた生活習慣の援助（4） 衣生活・睡眠・移動	講義		
	5	成長発達に応じた生活習慣の援助（5） 遊びと学習への援助	講義		
	6	成長発達に応じた生活習慣の援助（6） 学童・思春期の生活および生活指導	講義		
	7	乳幼児に必要な日常生活援助技術 調乳、授乳、離乳食、おむつ交換、衣服の着脱、抱き方	講義		
	8	子どもの事故と安全対策、救命処置（気道内異物除去法、CPR） 子どもの事故の特徴と要因、予防	講義		
	9	治療における意思決定のための心理的支援 インフォームドアセント プレパレーションの意義と目的 小児各期におけるプレパレーションの方法	講義		

	10	ハイリスク新生児にある小児と家族の看護（1） 低出生体重児、高ビリルビン血症にある小児の看護 保育器の管理、親子・家族関係確立への支援	講義
	11	健康障害をもつ小児の生活と看護（2） 鎖肛による手術療法を受ける小児と家族の看護 障害受容のプロセス、在宅移行・地域連携	講義
	12	健康障害をもつ小児の生活と看護（3） 急性リンパ性白血病による化学療法の実際と心身の影響と看護 治療における隔離中の小児と家族の看護	講義
	13	健康障害をもつ小児の生活と看護（4） ネフローゼ各期における小児と家族の看護 ネフローゼ症候群により活動制限や食事制限にある小児と家族の看護	講義
	14	健康障害をもつ小児の生活と看護（5） 1型糖尿病による急性期症状・治療・低血糖時の対処法 1型糖尿病におけるセルフケア獲得への看護	講義
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 小児看護学概論／小児臨床総論 医学書院 佐々木祥子編： 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ		
成績評価方法	筆記試験 課題レポート		

科 目	小児看護方法論Ⅱ	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	母性・小児看護学概論、小児看護対象論、小児看護方法論Ⅰで学習した既習の知識を活用しながら、健康障害にある小児と家族への理解を深める。また様々な健康状態にある小児に対して、最も良い健康状態を保ち、健康回復に必要な支援を考え、成長発達を遂げるように家族も含めて援助する必要性について学ぶ。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴を踏まえ疾病・障害が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 2. 発達・病期に適した日常生活の援助や心理について学び理解する。 3. 小児期に多い特徴的的症状と検査・処置を受ける小児の看護を理解する。 4. 小児看護に必要な看護技術を理解する。 5. 小児期の事例を看護過程の枠組みに沿って考えることができる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 病気・障害が子どもと家族に与える影響 入院中の子どもと家族の看護	講義		
	2	小児における経過と看護（1） 慢性期にある子どもと家族の特徴 年齢に見合ったセルフケア能力の育成 成人移行期医療における移行支援	講義		
	3	小児における経過と看護（2） 急性期・周手術期にある子どもと家族の特徴 発達段階に応じた術前・術後の看護	講義		
	4	小児における経過と看護（3） 終末期にある子どもと家族の特徴 子どもの生命・死の理解 終末期を迎える小児と家族の看護、子どもを亡くした家族の看護	講義		
	5	症状を示す小児の看護（1） 不機嫌、啼泣、痛み、発熱、発疹	講義		
	6	症状を示す小児の看護（2） 嘔吐、下痢、脱水、痙攣、意識障害	講義		

	7	小児のアセスメントに必要な技術 身体計測、バイタルサインの測定	講義
	8	小児の呼吸のアセスメントに必要な技術 呼吸音聴取、吸入、吸引、酸素療法	講義
	9	検査・処置を受ける小児の看護（1） 与薬、注射、輸液管理、採血、採尿	講義
	10	検査・処置を受ける小児の看護（2） 骨髄穿刺、腰椎穿刺、抑制、経管栄養	講義
	11	小児の看護過程の展開（1） 小児の看護過程の展開における特徴 Data Base による情報の整理 アセスメントの3つの柱とアセスメントの視点	講義 演習
	12	小児の看護過程の展開（2） アセスメントと看護問題	講義 演習
	13	小児の看護過程の展開（3） 問題リストと優先度、全体像	講義 演習
	14	小児の看護過程の展開（4） 看護計画、期待される結果	講義 演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座	小児臨床看護各論 小児看護学概論／小児臨床総論	医学書院 医学書院
	佐々木祥子他編：写真でわかる小児看護技術アドバンス		インターメディカ
成績評価方法	筆記試験	課題	提出物

看護の統合と実践

1. 目的

各分野で学習した知識・技術を統合し、臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
メンバーシップやリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学び、医療安全と災害看護の基礎的知識を含めた看護をマネジメントできる能力を養う。

2. 目標

- 1) チーム医療における看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ。
- 2) 災害看護の実践につながる基礎的知識を学ぶ。
- 3) 看護技術の総合的な評価を行い、各分野で学習した内容をもとにした看護実践を学ぶ。
- 4) 国際社会における保健・医療・福祉の課題について学ぶ。

3. 科目構成

看護の統合と実践

医療安全	1 単位	30 時間	2 年次
看護管理	1 単位	15 時間	3 年次
災害看護	1 単位	15 時間	3 年次
臨床実践の基礎知識	1 単位	30 時間	3 年次
臨床看護の実践	1 単位	30 時間	3 年次
専門知識の関連と理解	1 単位	30 時間	3 年次

科 目	医療安全	単位数	1	時間数	30(15回)
開 講	2年次 後期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	<p>日々進歩する高度な医療が行われている今日の医療現場において、看護師は最終的な医療行為者や観察者になることが多く、わずかな間違いや観察不足が重大な医療事故に結びつくという日常に身を置いている。</p> <p>また、厚生労働省の医療安全対策検討会では、医療者が医療行為、医薬品、医療機器、患者に存在する危険を認識する能力を持つことの重要性、および「してはならないこと」「すべきこと」、そしてその根拠・理由も含めて教育する必要性が指摘されている。</p> <p>そこで、間違いや事故がどのような要因で起きているのか明確になり、医療安全の考え方や行動が培われ、正しい看護技術修得の重要性を再確認できるようにしたい。</p> <p>さらに、医療事故の被害者は患者のみならず医療従事者も含まれること、医療安全対策の国内外の潮流、業務領域をこえて共通する間違いと発生要因などについても学び、多職種が連携・協働するチーム医療における安全対策の知識・姿勢を定着できるようにする。</p>				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に関する人間の行動特性と自己の傾向がわかる。 2. 看護・医療事故の危険因子、予防する方法がわかる。 3. 看護・医療事故発生時の対処方法がわかる。 4. 事件事例分析の実際を通して、安全な看護を提供するための判断力と実践力が高められる。 5. 対象の権利を尊重し、安全を保証するための看護者としての責務がわかる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	医療安全を学ぶことの大切さ	講義		
	2	人間の生理的特性とエラー ヒューマンエラーのメカニズム 医療事故の分類	講義		
	3	事故防止を理解するうえで重要な法則とモデル 事故防止の考え方と事故分析	講義		
	4	看護事故とは 医療安全とコミュニケーション	講義		
	5	療養上の世話に関する事故防止（グループワーク）	講義		
	6	診療の補助業務に伴う事故防止（グループワーク）	講義		

	7	事例検討①	講義
	8	事例検討②	講義
	9	リスクマネジメントと事故後の対応	講義
	10	組織的な安全管理体制への取り組み	講義
	11	事件事例分析の知識と実際（個人・グループワーク）①	演習
	12	事件事例分析の知識と実際（個人・グループワーク）②	演習
	13	事件事例分析の発表（グループワーク）①	演習
	14	事件事例分析の発表（グループワーク）②	演習
	15	終講試験 まとめ	試験
テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院		
成績評価方法	筆記試験 グループワーク及び発表点		

科 目	看護管理		単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	3年次 前期		講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師					
授業のねらい	この科目では、看護を仕組みとしてとらえ、看護管理がどのように成り立っているのか、問題は何か、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのかについて学び、看護のマネジメントの知識が理解できるようにする。また、グローバリゼーションが日々進展している現在、国際看護の知識が持続可能な開発目標（SDGs）における看護の役割・行動の土台となり、人道支援の原則につながっていることについても学ぶ。					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護をマネジメントできる基礎的知識が理解できる。 2. 多職種との連携・協働のためのマネジメントが理解できる。 3. 国際社会における保健・医療・福祉の課題と国際協力が理解できる。 					
講義内容	授業計画及び学習の内容					
	回数	内 容	方法			
	1	看護管理学とは マネジメントとは 看護におけるマネジメント	講義			
	2	看護の法的責任 看護職の教育制度	講義			
	3	看護サービスのマネジメント チーム医療における看護師としてのリーダーシップとメンバーシップ 多職種との連携・協働のためのマネジメント	講義			
	4	情報のマネジメント 技術のマネジメント サービス評価	講義			
	5	国際協力のしくみと実際の活動（健康格差と異文化看護） 開発途上国の健康問題と援助の実際 グローバル化と看護	講義			
	6	国際社会における看護の対象 文化を考慮した看護の実際 SDGs と看護	講義			
	7	看護職のキャリア形成 キャリアサポート	講義			
	8	終講試験	試験			
テキスト	系統看護学講座 看護管理		医学書院			
	災害看護学・国際看護学		医学書院			
成績評価方法	筆記試験					

科 目	災害看護	単位数	1	時間数	15(8回)
開 講	3年次 前期	講 義			
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師				
授業のねらい	日本は地震や洪水・台風、火山爆発など自然災害が発生しやすい。また近年は、列車事故・爆発、化学物質の事故など人為災害の危険性も増している。頻発する災害により、人々の災害に対する危機意識や防災意識への関心が高まり、災害医療体制の充実や医療者が果たす役割の重要性が強く認識されてきた。一方、看護師には災害発生直後の緊急時から中長期にわたって広い範囲で、状況に応じた様々な役割が求められる。そのため、看護基礎教育においては、将来実践に結びつく基礎的知識・技術を理解する。				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療の基礎的知識が理解できる。 2. 災害看護の特殊性と実際が理解できる。 3. 災害がもたらす精神的影響と心のケアが理解できる。 				
講義内容	授業計画及び学習の内容				
	回数	内 容	方法		
	1	災害と災害看護の歴史 災害と疾病構造	災害の定義、種類 災害サイクル	講義	
	2	災害医療と救急医療 災害と法制度	CSCATTT（トリアージ） 災害時における医療体制	講義	
	3	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた看護①		講義	
	4	災害サイクルに応じた看護②		講義	
	5	災害サイクルに応じた看護③ 災害者特性に応じた災害看護		講義	
	6	災害時のメンタルヘルス		講義	
	7	災害拠点病院の必要性と役割 防災計画と災害発生時の対応		講義	
	8	終講試験		試験	
テキスト	系統看護学講座	災害看護学・国際看護学	医学書院		
成績評価方法	筆記試験				

科 目	臨床実践の基礎知識	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	3年次 前期	講 義																																																	
担当者	専任教員（実務経験あり）・非常勤講師																																																		
授業のねらい	<p>前半における実習の学びを専門的知識と関連させて理解する機会とし、後半の実習に向けて科学的根拠に基づいた看護の実践的能力の向上に努める。</p> <p>この科目では、専門基礎分野と専門分野の科目の中で、臨地実習と特に関連が深い科目を取り上げて、専門知識の理解を深める教科として展開する。</p> <p>講義のねらいから、受講は卒業年度が望ましい。</p>																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習の学びを専門知識と関連させて理解し、卒業時の知識・技術の統合を図り、看護の実践的能力を高める。 2. 演習問題を基に理解の促進を図る。 																																																		
講義内容	<p>授業計画及び学習の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>解剖学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>解剖学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>生理学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>生理学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>生化学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>薬理学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>微生物学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>病理学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>公衆衛生学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>社会福祉</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>看護関係法令</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>病態生理学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>病態生理学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>基礎看護学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>終講試験 まとめ</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table> <p>*講義の順番が変更になる場合があります。</p>			回数	内 容	方法	1	解剖学①	講義	2	解剖学②	講義	3	生理学①	講義	4	生理学②	講義	5	生化学	講義	6	薬理学	講義	7	微生物学	講義	8	病理学	講義	9	公衆衛生学	講義	10	社会福祉	講義	11	看護関係法令	講義	12	病態生理学①	講義	13	病態生理学②	講義	14	基礎看護学	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	解剖学①	講義																																																	
2	解剖学②	講義																																																	
3	生理学①	講義																																																	
4	生理学②	講義																																																	
5	生化学	講義																																																	
6	薬理学	講義																																																	
7	微生物学	講義																																																	
8	病理学	講義																																																	
9	公衆衛生学	講義																																																	
10	社会福祉	講義																																																	
11	看護関係法令	講義																																																	
12	病態生理学①	講義																																																	
13	病態生理学②	講義																																																	
14	基礎看護学	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	講師作成の資料、上記科目の各テキスト																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

科 目	臨床看護の実践	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	3年次 後期	講 義																																																	
担当者	専任教員（実務経験あり）																																																		
授業のねらい	臨床現場が、医療の高度化、高齢化、重症化、在院日数の短縮、医療安全の強化へ進展していく中、複数患者の受け持ちや、多重課題における注意力の低下が指摘されており、卒業後の臨床実践能力を高める必要がある。そこで、この科目では、これまでの実習の振り返りを通して、課題が重なる複雑な状況における臨床判断と適切な看護行動を学ぶ。また、看護技術を総合的に評価して知識・技術・態度の統合を図り、卒業時の看護技術到達状況と自己の課題を明確にする。 講義のねらいから、受講は卒業年度が望ましい。																																																		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーション演習および多重課題への対応演習を通して、看護実践能力が向上する。 2. 看護実践評価を基に自己の看護観を考えることができる。 3. 科学的根拠に基づいた臨床判断と看護実践ができるための知識が定着する。 																																																		
講義内容	授業計画及び学習の内容																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習③</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習④</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>シミュレーション演習とデブリーフィング①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>シミュレーション演習とデブリーフィング②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>多重課題への対応（グループワーク）①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>多重課題への対応（グループワーク）②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>看護実践評価（グループワーク）①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>看護実践評価（グループワーク）②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>看護観の発表</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>統合確認試問Ⅰ</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>統合確認試問Ⅱ</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>統合確認試問Ⅲ</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験 まとめ</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	方法	1	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習①	演習	2	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習②	演習	3	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習③	演習	4	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習④	演習	5	シミュレーション演習とデブリーフィング①	演習	6	シミュレーション演習とデブリーフィング②	演習	7	多重課題への対応（グループワーク）①	演習	8	多重課題への対応（グループワーク）②	演習	9	看護実践評価（グループワーク）①	演習	10	看護実践評価（グループワーク）②	演習	11	看護観の発表	演習	12	統合確認試問Ⅰ	試験	13	統合確認試問Ⅱ	試験	14	統合確認試問Ⅲ	試験	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習①	演習																																																	
2	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習②	演習																																																	
3	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習③	演習																																																	
4	専門基礎分野および専門分野の知識再確認学習④	演習																																																	
5	シミュレーション演習とデブリーフィング①	演習																																																	
6	シミュレーション演習とデブリーフィング②	演習																																																	
7	多重課題への対応（グループワーク）①	演習																																																	
8	多重課題への対応（グループワーク）②	演習																																																	
9	看護実践評価（グループワーク）①	演習																																																	
10	看護実践評価（グループワーク）②	演習																																																	
11	看護観の発表	演習																																																	
12	統合確認試問Ⅰ	試験																																																	
13	統合確認試問Ⅱ	試験																																																	
14	統合確認試問Ⅲ	試験																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院 講師作成の資料																																																		
成績評価方法	筆記試験 提出物など																																																		

科 目	専門知識の関連と理解	単位数 1	時間数 30(15回)																																																
開 講	3年次 後期	講 義																																																	
担当者	専任教員（実務経験あり）																																																		
授業のねらい	この科目では、専門分野に重点を置き、専門知識の理解と統合を深める教科として展開し、実習における学びを机上における専門知識に関連させて統合的に理解できるようにし、臨地実習を含めた3年間の学習の総仕上げとなるようにする。 講義のねらいから、受講は卒業年度が望ましい。																																																		
授業の到達目標	1. 臨地実習の学びを専門知識と関連させて、看護学の統合的な理解を深める。 2. 演習問題を基に理解の促進を図る。																																																		
講義内容	授業計画及び学習の内容																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>基礎看護学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>基礎看護学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>地域・在宅看護論①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>地域・在宅看護論②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>地域・在宅看護論③</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>精神看護学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>成人・老年看護学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>成人・老年看護学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>成人・老年看護学③</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>成人・老年看護学④</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>成人・老年看護学⑤</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>母性・小児看護学①</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>母性・小児看護学②</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>看護の統合と実践</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>終講試験 まとめ</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">*講義の順番が変更になる場合があります。</p>			回数	内 容	方法	1	基礎看護学①	講義	2	基礎看護学②	講義	3	地域・在宅看護論①	講義	4	地域・在宅看護論②	講義	5	地域・在宅看護論③	講義	6	精神看護学	講義	7	成人・老年看護学①	講義	8	成人・老年看護学②	講義	9	成人・老年看護学③	講義	10	成人・老年看護学④	講義	11	成人・老年看護学⑤	講義	12	母性・小児看護学①	講義	13	母性・小児看護学②	講義	14	看護の統合と実践	講義	15	終講試験 まとめ	試験
回数	内 容	方法																																																	
1	基礎看護学①	講義																																																	
2	基礎看護学②	講義																																																	
3	地域・在宅看護論①	講義																																																	
4	地域・在宅看護論②	講義																																																	
5	地域・在宅看護論③	講義																																																	
6	精神看護学	講義																																																	
7	成人・老年看護学①	講義																																																	
8	成人・老年看護学②	講義																																																	
9	成人・老年看護学③	講義																																																	
10	成人・老年看護学④	講義																																																	
11	成人・老年看護学⑤	講義																																																	
12	母性・小児看護学①	講義																																																	
13	母性・小児看護学②	講義																																																	
14	看護の統合と実践	講義																																																	
15	終講試験 まとめ	試験																																																	
テキスト	講師作成の資料 上記科目の各テキスト																																																		
成績評価方法	筆記試験																																																		

臨地実習

専門分野実習

〈基盤看護学〉

	実習名	単位	時間	時期
基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ期 前期	1	45	1年次6月(2日)
	基礎看護学実習Ⅰ期 後期			1年次1月(4日)
	基礎看護学実習Ⅱ期	2	90	7月12日間
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	2年次1月～
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	2年次1月～
	地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	90	2年次1月～
精神看護学	精神看護学実習	2	90	2年次1月～

〈臨床療養看護学〉

	実習名	単位	時間	時期
成人・老年看護学	成人経過別看護実習Ⅰ	2	90	2年次1月～
	成人経過別看護実習Ⅱ	2	90	2年次1月～
	老年看護学実習	2	90	2年次1月～

〈成育看護学〉

	実習名	単位	時間	時期
母性・小児看護学	母性看護学実習	2	90	2年次1月～
	小児看護学実習	2	90	2年次1月～

〈看護の統合と実践〉

	実習名	単位	時間	時期
看護の統合と実践	統合実習	2	90	3年次10月～

基礎看護学実習		総単位数 3	総時間数 135
科 目	基礎看護学実習 I 期 前期 1 年次 6 月 後期 1 年次 1 月	単位数 1	時間数 45
開 講	1 年次 前期 / 1 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>基礎看護学実習 I 期 前期</p> <p>目的 看護活動の実際と対象の入院生活の場を知る。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場と看護の実際を知る。 2. 対象の入院生活の場を知る。 <p>基礎看護学実習 I 期 後期</p> <p>目的 対象に応じた生活の援助を計画、実施できるとともに、多くの専門職の役割を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に応じた生活の援助を計画、実施できる。 2. 対象にかかわる多職種とその役割について理解する。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
実習参加に関する先修要件と取り決め事項			
基礎看護学実習 I 期 前期：先修要件なし。			
基礎看護学実習 I 期 後期：看護学概論、臨床看護総論、基本技術、生命活動を支える技術を修得しておくこと。			

基礎看護学実習		総単位数 3	総時間数 135
科 目	基礎看護学実習Ⅱ期 2年次 7月	単位数 2	時間数 90
開 講	2年次 前期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>対象に必要な看護を実践するための看護過程展開の技術を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の看護の必要性を捉えることができる。 2. 対象に必要な看護計画を立案できる。 3. 立案した計画に基づいて日常生活援助を中心にした看護の実施ができる。 4. 実施した看護の評価ができる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
実習参加に関する先修要件と取り決め事項			
基礎看護学実習Ⅱ期：実習開始前までにすべての1年次科目を全て修得しておくこと。			

地域・在宅看護論実習		総単位数 6	総時間数 270
科 目	地域・在宅看護論実習 I	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>地域で暮らす子ども、高齢者とその家族の健康と暮らしを支える能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放課後児童クラブの実際をとおして、子どもと家族の暮らしを支える仕組みが理解できる。 2. 高齢者福祉センターの実際を通して、アクティブシニアの健康を支える集いの場が理解できる。 3. 立案した計画に基づいて日常生活援助を中心にした看護の実施ができる。通所介護の実際を通して、高齢者とその家族を支える仕組みが理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

地域・在宅看護論実習		総単位数 6	総時間数 270
科 目	地域・在宅看護論実習 II	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>地域包括システムを理解し、地域で生活している人々とその家族に応じた支援ができる。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援システムにおける制度・仕組みが理解できる。 2. 地域で生活している人々とその家族のニーズおよび生活課題が理解できる。 3. 地域で療養しながら生活している人々とその家族を支える、ケアマネジメントの実際が理解できる。 4. 地域で療養生活を継続するための医療機関での支援が理解できる。 5. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携・協働が理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

地域・在宅看護論実習		総単位数 6	総時間数 270
科 目	地域・在宅看護論実習Ⅲ	単位数 2	時間数 90
開 講	2年次後期～3年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>地域で療養する対象とその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で疾病や障害を持ちながら、社会生活を送る対象とその家族の特徴が理解できる。 2. 地域で療養している対象とその家族のニーズに応じた看護が理解できる。 3. 地域で療養している対象を支える、保健・医療・福祉チームの多職種・多機関との連携が理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし3年次履修科目は除く）</p>			

精神看護学実習		総単位数 2	総時間数 90
科 目	精神看護学実習	単位数 2	時間数 90
開 講	3年次 後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>精神に障がいをもつ対象の理解を深め、障害の状況にあわせた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する精神に障がいをもつ人の支援について理解できる。 2. 精神の健康問題を抱える対象に関心を寄せ、精神症状が日常生活や対人関係に与える影響が理解できる。 3. 精神に障がいをもつ対象との関わりを通して自己を見つめ、対象とのよりよい関係を築くための自己の課題を考えることができる。 4. 精神に障がいをもつ対象の治療的環境や看護師の役割が理解できる。 5. 精神保健・医療・福祉チームの連携や社会資源の活用について理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし3年次履修科目は除く）</p>			

成人看護学実習		総単位数 4	総時間数 180
科 目	成人経過別看護実習 I	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>成人期にある対象を統合して理解し、クリティカルシンキングに基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目 的</p> <p>回復期・慢性期・終末期にある対象への看護を実践できる能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期における対象を統合して理解する。 2. 疾病の経過に応じた看護過程の展開ができる。 3. 看護の継続性と、対象にあった地域・在宅への移行支援が理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての役割と、多職種との連携が理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

成人看護学実習		総単位数 4	総時間数 180
科 目	成人経過別看護実習 II	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>成人期にある対象を統合して理解し、クリティカルシンキングに基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目 的 急性期・周手術期にある対象への看護を実践できる能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期における対象を統合して理解する。 2. 急性期・周手術期の看護過程の展開ができる。 3. 保健・医療・福祉チームの一員としての役割と、多職種との連携が理解できる。 4. 手術療法時の看護の役割を理解する。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
実習参加に関する先修要件と取り決め事項			
<p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

老年看護学実習		総単位数 2	総時間数 90
科 目	老年看護学実習	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>老年期にある対象を理解し、健康状態に応じた適切な看護実践能力と態度を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神心理的・社会的な機能の変化（老性変化）が理解できる。 2. 高齢者の生活の場が理解でき、生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法が理解できる。 3. 高齢者の健康状態と環境の変化を捉えた看護過程の展開ができる。 4. 高齢者とその家族を支える多職種連携実践の在り方が理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

母性看護学実習		総単位数 2	総時間数 90
科 目	母性看護学実習	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>周産期にある母性及び新生児とその家族の特性を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象が理解でき、母子の生理的变化を観察し、正常に経過しているか理解できる。 2. 周産期の母子を総合的にとらえ、対象に適した援助が理解できる。 3. 母子関係成立に向けた援助を理解できる。 4. 母子を取り巻く保健・医療・福祉との連携や、看護の役割について理解できる。 5. 生命の尊厳や、母性の社会・文化的な意味について理解し、自己の考えを深めることができる。 6. 地域（助産所）における母子の保健活動の実際について理解できる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
実習参加に関する先修要件と取り決め事項			
<p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p>			

小児看護学実習		総単位数 2	総時間数 90
科 目	小児看護学実習	単位数 2	時間数 90
開 講	2 年次後期～3 年次後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>小児の成長発達の特徴を理解し、あらゆる発達段階・健康状態にある小児とその家族に対して、適切な看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な乳幼児の成長発達の特徴を捉え、発達段階に応じた支援の方法が理解できる。 2. 小児における健康障害や入院が、患児と家族に及ぼす影響を理解できる。 3. 小児の健康状態の回復と成長発達の支援のために、必要な援助が実施できる。 4. 小児看護の役割と地域・学校等を含めた保健・医療・福祉との連携について理解することができる。 5. 障害をもちながら療養または在宅で生活する子どもと家族の実際を知る。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
実習参加に関する先修要件と取り決め事項			
実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと (ただし 3 年次履修科目は除く)			

統合実習		総単位数 2	総時間数 90
科 目	統合実習	単位数 2	時間数 90
開 講	3 年次 後期	実習	
担当者	専任教員（実務経験あり）・実習指導教員（実務経験あり）		
実習目的 実習目標	<p>目 的</p> <p>一勤務帯を通じた実習の中で、看護チームの一員の体験、複数の受け持ちを通して、知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養うとともに、多職種との連携・協働の実際を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟管理の実際や他部門との連携を通して看護管理の理解を深める。 2. 看護チームにおけるリーダーやメンバーの役割について理解できる。 3. 複数患者の援助の実際を体験し、看護の優先順位と時間管理を考慮した実践ができる。 4. チーム医療における多職種連携・協働に向けた看護の役割を理解する。 5. 学習の振り返りができ、将来の看護師としての課題が明確にできる。 		
実習内容	実習計画及び学習の内容		
	※実習内容・実習方法の詳細は「実習要項」参照		
成績評価方法	実習評価基準に基づき、実習評価表で行う。		
<p>実習参加に関する先修要件と取り決め事項</p> <p>実習開始前までに、すべての科目を修得しておくこと （ただし 3 年次履修科目は除く）</p> <p>さらに、該当学年度の卒業見込み者とする。</p> <p>卒業見込みが取り消された場合は、統合実習の単位を認めない。</p>			